

ジョン・レイシー作

『スコットランド人ソーニイ』論¹⁾

大和 高行²⁾・小林 潤司³⁾・杉浦 裕子⁴⁾

John Lacy, *Sauny the Scot*

Takayuki YAMATO, Junji KOBAYASHI and Yuko SUGIURA

Abstract

Sauny the Scot (1667) was written for production by the King's Company to which the author, John Lacy, himself belonged as a shareholder, actor and dramatist. Lacy made the Restoration new comedy as a mixed adaptation from Shakespeare's *The Taming of the Shrew* (1594), the anonymous play *The Taming of a Shrew* (1594), and John Fletcher's *The Woman's Prize, or The Tamer Tamed* (1611). By doing so, he was able to give focus to his own part Sauny, Petruahio's Scottish footman.

As Katherine West Sheil (1997: 72-73) points out, the most important sources for making Sauny an 'outsider' was John Tatham's so-called Scots plays: *The Distracted State* (1641), *The Scots Figgaries; or A Knot of Knaves* (1652), and *The Rump, or The Mirror of the Late Times* (1660). Lacy thus enlarged Sauny's role, making use of the conventional images seen in these contemporary plays: Petruahio's Italian footman Grumio in Shakespeare turns into a Scots one Sauny in Lacy, who often interludes the conversations between the gay couple, Petruchio and Margaret, or other characters, causing laughter mainly with his Scottishness.

Whereas both the basic plot development and a great number of words and phrases in *Sauny the Scot* are from Shakespeare's *The Taming of the Shrew*, there are some differences: the induction of Christopher Sly was lost; the locations became England (London); some names were Anglicized such as Lord Beaufoy, Woodall, and Sir Lionel Winlove; all the characters speak in prose; song and dance was increased; and more violent elements can be seen in *Sauny the Scot*, which offer more opportunities for the repressed characters to lay bare their hearts on stage. It is at this time when they express themselves that the new comic atmosphere in *Sauny the Scot* is created, for example, in the conversations between Petruahio and his footman, Sauny, Margaret and her younger sister, Bianca, and Petruahio and his wife, Margaret. For the closing, Lacy creates a very impressive scene in Act 5, making good use of the material from Fletcher's *The Woman's Prize*.

Sauny the Scot was performed more than 30 times as recorded, from its first performance in Drury Lane Theatre, Bridges Street, on April 9th, 1667, until the next new adaptation, *Catherine and Petruchio*, by David Garrick in 1756. From the viewpoint of theatrical history, we can safely say that Lacy played an important role in supplying a Shakespearean adaptation to the Restoration stage, which became part of the repertory until the middle of the 18th century.

キーワード：ジョン・レイシー、『スコットランド人ソーニイ』、シェイクスピア劇の改作、
『じゃじゃ馬馴らし』

¹⁾ 本稿は、平成21年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「シェイクスピア劇の材源と改作に関する翻訳プロジェクト研究」(課題番号 20520232)に基づく研究成果の一部である。なお、解説を書くにあたり、拙論「John Lacy, *Sauny the Scot* (1667) にみる新たな喜劇性——イングランド、スコットランド、そして「インド」——」『鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集』第69号(2009)、109-32頁の記述に加筆・削除の修正を施した文章を再掲した箇所がある。

²⁾ 鹿児島大学法文学部 准教授

³⁾ 鹿児島国際大学国際文化学部 教授

⁴⁾ 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 講師

作者について

ジョン・レイシー (John Lacy) は、ドンカスター近郊で生まれ (生年未詳)、1681年9月17日にロンドンのドルリー・レーン (Drury Lane) で亡くなった。1631年にロンドンに上京した彼は、印刷業者・翻訳家・^{ダンシング・マスター}踊りの師匠として知られたジョン・オーグルビー (John Ogilby, 1600-76年) に師事し、チャールズ・ギルドン (Charles Gildon, 1665頃-1724年) の手になるものと推定される *The Lives and Characters of the English Dramatic Poets* (1699)⁵⁾ の中で「類まれなる身のこなしと素晴らしい表情」(“of a rare shape of body and good expression”) という褒め言葉で評されるほどの踊りの名手となった。⁶⁾ レイシーの名前は、17世紀イングランドの故事研究家・伝記作家ジョン・オーブリー (John Aubrey, 1626-97年) が『名士小伝』(Brief Lives, 1898) でベン・ジョンソン (Ben Jonson, 1572-1637年) について解説した箇所にも現れる。オーブリーが記すには、レイシー曰く、「自分が若い頃、ジョンソンにヨークシャー方言の一覧表を書いて情報提供し、ジョンソンはそれをもとに喜劇『桶物語』(Tale of a Tab, 1633) の道化を書いた」とのこと。⁷⁾ このように、相当な踊りの腕前とイングランド北部方言に関する豊かな知識を誇る人物であったようである。

レイシーは、1660年の王政復古を機にトマス・キリグルー (Thomas Killigrew, 1612-83年) によって旗揚げされた国王一座 (the King's Company) のスタート時からのメンバーであり、国王一座の主要株主の一人として、喜劇を演じることに^た長けたスター俳優として、また、自ら芝居を書く劇作家として、一座を支える中心的な役割を果たした。レイシーが一座で初めて演じた役柄は、ジョン・ウィルソン (John Wilson, 1627-96年) の喜劇『騙し』(The Cheats, 1662) に登場する非国教徒スクループル (Scruple) である。この役柄をレイシーは、当時よく知られた、ある非国教徒を明るく真似て演じた。この劇が一時的に上演禁止となったのは、そのことが物議を醸したためだとされている。喜劇的人物の特徴を誇張しながら滑稽に演じてみせるレイシーの演技は、このようにしばしば問題視されることもあった。だが、当時の観客には受けがよく、概して歓迎されたようである。たとえば、17世紀イングランドの日記作家サミュエル・ピープス (Samuel Pepys, 1633-1703年) はレイシーの喜劇的演技を好んだことで知られるが、1663年6月12日にサー・ロバート・ハワード (Sir Robert Howard, 1626-98年) の『委員会』(The Committee) でレイシーがティグ氏 (Teague) の役柄を演じるのを見て、「楽しいが、凡庸な劇である。ただ、アイルランド人従者のレイシーの役だけが想像以上だった」(“a merry but indifferent play, only Lacy's part, an Irish footman, is beyond imagination”)^{コメント}との評言を残している。同様の評言は、17世紀イングランドの日記作家ジョン・イーヴリン (John Evelyn, 1620-1706年) の1662年11月27日の記述にも見られるので、当時、レイシーは喜劇俳優として人気を博していたことが分かる。実際、レイシーが演じたことが知られる役柄には喜劇的な登場人物が多く、ベン・ジョンソンの作品では、1664年に再演された『もの言わぬ女』(Silent

⁵⁾ ジェラルド・ラングベイン (Gerard Langbaine, 1656-92年) の跡を継いだギルドンが書き加えていったものと推測されている。

⁶⁾ レイシーが王政復古期の女優ネル・グウィンに演技の手ほどきをしたことが知られている。

⁷⁾ ジョン・オーブリー『名士小伝』橋口稔・小池鈺 (訳)、23頁。

Woman) のトマス・オッター隊長 (Captain Otter), 『錬金術師』 (The Alchemist) の執事アナナシアス (Ananias), 1665年に再演された『古ぎつね』 (The Fox) の自称策士サー・ポリティック・ウッドビー (Sir Politic Wouldbe) を, ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616年) ではサー・ジョン・フォールスタッフ (Sir John Falstaff) を, 1667年5月1日に再演されたジェイムズ・シャーリー (James Shirley, 1596-1666) の『変化, または迷路の中の恋』 (Changes; or, Love in a Maze) では道化 (the clown) を好演したことが知られている。

他方, 劇作家としてのレイシーは, 『スコットランド人ソーニイ』 (Sauny the Scot, 1667), 『古いぼれ一団, あるいはラグー氏』 (The Old Troop; or, Monsieur Raggou, 1672), 『押し黙った貴婦人』 (The Dumb Lady, 1672), 『サー・ハーキュリーズ・バフーン』 (Sir Hercules Buffoon, 1684) という4つの劇を手がけた。

『スコットランド人ソーニイ』は, シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』 (The Taming of the Shrew) の改作として知られる。この劇は, 王政復古期初頭1667年4月9日にブリッジズ・ストリート (Bridges Street) のドルリー・レーン劇場 (Drury Lane Theatre) で上演されて以来, 1754年まで——つまり, デーヴィッド・ギャリック (David Garrick, 1717-79年) による新たな改作劇『キャサリンとペトルーチオ』 (Catherine and Petruchio, 1756) が現れるまでの間——記録に残っているだけで30回以上再演された。⁸⁾ このように, 18世紀半ばまでレパートリーとして演じ続けられる改作を作り出した点に, 王政復古以降の演劇界においてレイシーが果たした役割を認めることができる。以下, 『スコットランド人ソーニイ』についてももう少し詳しく解説する。

『スコットランド人ソーニイ』について

既にふれたように, レイシーは『委員会』のアイルランド人従者ティーグや『古いぼれ一団, あるいはラグー氏』のフランス人ラグー氏など, いわば「よそ者」を面白おかしく演じることで人気を博していた。レイシーが『じゃじゃ馬馴らし』を『スコットランド人ソーニイ』として改作するにあたり最も工夫した点は, イングランド北部地方の方言に精通した自己の才能を十分に発揮できるように, 舞台をイタリアからイングランドに, ペトルーキオ (Petruchio) のイタリア人従者グルーミオをスコットランド人従者ソーニイに変更することであった。⁹⁾

『スコットランド人ソーニイ』は, 題名が示すように, ソーニイを喜劇的主役とする劇である。むろん, ソーニイは主筋の主人公に仕える使用人に過ぎない。だが, 題名の役柄をレイシー

⁸⁾ William Van Lennep, Emmett L. Avery, Arthur H. Scouten, George Winchester Stone, Jr., and Charles Beecher Hogan (eds.), *The London Stage 1660-1800*, 5 parts, 11 vols. (Carbondale: Southern Illinois UP, 1960-68) を参照。

⁹⁾ スコットランド語風に訛った英語を話すソーニイは, 本来の主筋である「じゃじゃ馬馴らし」の主人公たちの当意即妙の会話に, ことある毎に割り込む。ソーニイの執拗な介入は, 陽気なカップル (gay couple) の丁々発止のやり取りを楽しむ喜劇の伝統に一つの変奏をもたらす試みであったといえる。たとえば, 1662年2月に上演されたトマス・シャドウエル (Thomas Shadwell, 1642?-92年) の『恋人たちを阻害する法』 (The Law against Lovers), すなわち, 『尺には尺を』に, 『空騒ぎ』の登場人物であるベアトリスとベネディックを移し換え, 主として2行連句の形式で書かれたシェイクスピアの改作劇においても, 陽気なカップルの当意即妙の会話が見られるが, そこに割り込む登場人物は認められない。

本人が演じ、スコットランドネタを「売り」にして喜劇性を高めている点を見逃してはならない。キャサリン・ウェスト・シェイル (Katherine West Scheil, 1997: 72-73) によれば、ソーニイの人物造形に最も重要な影響を与えた材源はジョン・テイサム (John Tatham, 生年未詳-1664年) の劇である。テイサムは1657年から1664年までのロンドン市長主催の野外劇のほとんどを手がけたことで知られる人物で、スコットランド人嫌いで有名であった。実際、『スコットランド人ソーニイ』以前には、テイサムの手になる、三つの「スコットランド人ネタ」の先行テキスト、すなわち、悲劇『狂乱状況』(*The Distracted State*, 1641)、喜劇『スコットランド人的類型』(*The Scots Figgaries; or A Knot of Knaves*, 1652)、喜劇『残部議会』(*The Rump, or The Mirror of the Late Times*, 1660) がある。¹⁰⁾ これらの劇に見られるような、巷で流布していた、当時のスコットランド人の紋切り型イメージを利用しながら、レイシーはソーニイという脇役の役どころを大きくした。そうすることで、本来の主筋である「じゃじゃ馬馴らし」の主人公たちの当意即妙の会話に介入し、「よそ者」を演じることに長けた自己の喜劇的才能でもって、笑いの幅を広げたわけである。

『スコットランド人ソーニイ』のもう一つの材源は、言うまでもなく、「じゃじゃ馬馴らし」のテーマに関係するものである。すなわち、ウィリアム・シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』(*The Taming of the Shrew*, 1594)¹¹⁾、作者未詳の『じゃじゃ馬馴らし』(*The Taming of a Shrew*, 1594)、ジョン・フレッチャー (John Fletcher, 1579-1625年) の『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らされて』(*The Woman's Prize, or The Tamer Tamed*, 1611)¹²⁾ という三つの先行テキストから、それぞれ影響を受けていることが確認されている。

『じゃじゃ馬馴らし』と『スコットランド人ソーニイ』

レイシーは、筋運びや台詞の引用に関して、シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』を主要な粉本として用いた。¹³⁾ ここでは、シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』と『スコットランド人ソーニイ』の比較を行う。

第一に、最も顕著な相違は、鑄掛け屋のクリストファ・スライが登場する序幕 (Induction) が廃止された点である。しばしば指摘されるように、劇中劇や黙劇は、王政復古期の劇場ではもはや時代遅れの演劇手法であった。ゆえに、古い劇を同時代風に仕立て直す際に必要な変更であったと考えられる。劇効果の観点から見れば、『スコットランド人ソーニイ』の劇世界は、より閉じた世界になったといえる。すなわち、序幕がある場合には、眠っているうちに領主の衣裳を着せられて皆から騙されるスライが芝居本編を観劇する様子を、観客が観るというメタ構造をとるため、シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』では芝居本編の登場人物たちとスラ

¹⁰⁾ 内乱期イングランドにおいてスコットランドをネタにしたテキストについては、Dale B. J. Randall, *Winter Fruit: English Drama, 1642-1660* (Lexington, KY: UP of Kentucky, 1995) を参照。

¹¹⁾ この劇の初めての刊本は、1623年の第1・2折本である。

¹²⁾ この劇の創作時期は1605年頃と推定され、初めての刊本は1647年に出版されている。

¹³⁾ ペトルーキオの従者ソーニイの名前やキャサリンの最後のスピーチで夫に対する妻の義務を聖書の記述に触れつつ述べる部分は、作者未詳の『じゃじゃ馬馴らし』からヒントを得ている。また、第5幕冒頭のマーガレットのスピーチに関しては、『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らされて』の影響が大きい。

イと観客たちの世界が相互に交渉するような感覚が生じる。¹⁴⁾ けれども、序幕が廃止された『スコットランド人ソーニイ』においては、そのような感覚は生じにくい。

第二の違いは、作品の「英国」化である。舞台はイタリア（パデュア、ヴェローナ）からイングランド（主としてロンドン）に変更された。これに伴い、ロード・ボーフォイ（シェイクスピアではバプティスタ）、マーガレット（同キャタリーナ）、ウィンラブ（同ルーセンショー）、ウッドオール（同グレミオ）ら登場人物の何人かは英国人風の名前になり、名前に込められた引^{アルージョン} 喩も分かりやすくなった。スコットランド語風に訛った英語で話すソーニイという「英国」内部の他者はいるが、劇の中で触れられる地名はイングランド内のものが圧倒的に多く、劇世界の自国化が進んでいるといえる。¹⁵⁾ これにより、『スコットランド人ソーニイ』の劇世界は、より身近で現実的な世界になったといえる。

第三は、韻文から散文への文体の変更である。『スコットランド人ソーニイ』では、全ての登場人物が散文体で話すようになった。それは、バプティスタ（Baptista）からロード・ボーフォイ（Lord Beaufoy）へと改名され、貴族階級であることが明示された登場人物に関しても例外ではない。当時の実際の話し言葉で対話が進み、会話に快活さを与えていると言える。

第四は、より暴力的なファースへの変更である。『スコットランド人ソーニイ』では亭主が女房に、姉が妹に、主人が召使いに、より激しい言動で接するようになった。このことが、「じゃじゃ馬もの」というジャンルの系譜に新しい特徴を生んでいる。たとえば、暴君的な家父長ペトルーキオに抑圧されるマーガレットの心情の描き方を見てみよう。彼女の悔しさや不満はどのように描写されているのであろうか。シェイクスピアの第1・2折本には第3幕第2場27行目のキャタリーナの台詞の直後に、「泣きながら退場」(Exit weeping.) とのト書きがあるが、『スコットランド人ソーニイ』では、マーガレットが劇中2箇所（第3幕第1場87行目および第3幕第3場56行目）で泣くことになった。ただし、夫に反抗しないように調教を受け、「女らしい」従順さを身につけたはずのマーガレットは第5幕第1場冒頭で依然としてビアンカ相手にペトルーキオに対する復讐計画を口にする。このように、『スコットランド人ソーニイ』では、より暴力的な要素が増えた分、そのような抑圧を受ける登場人物が悔しさや不満などの心情を吐露する機会も多くなっている。

第五は、歌と踊りの採用である。二三例を示せば、第3幕第1場47行目のビアンカの台詞の後には、歌詞は記されていないが、歌（Song）のト書きがある。また、第3幕第2場73行目のペトルーキオの台詞の後にも、歌う（Sings）というト書きで2行の歌詞が設けられている。更に、終幕部分（第5幕第1場432行目）のペトルーキオの台詞の後には、踊り（Dance）というト書きがある。

¹⁴⁾ 劇世界の境界がぼやけ、相互浸透するように作られているように思われる感覚については、柴田稔彦『「夏の夜の夢」—— 溶ける境界』、柴田稔彦（編）『シェイクスピアを読み直す』研究社、2001年、117-29頁参照。

¹⁵⁾ 「英国」内をイングランドとスコットランドに分けると、前者では、オックスフォード（Oxford, 1.1.14）、ロンドン（London, 1.1.22）、チャリング・クロス（Charing-cross, 1.1.75）、スミスフィールド（Smith-field, 1.1.82）、ビリングズゲート（Billingsgate, 2.1.81）、ウスターシャー（Worstershire, 2.1.192）、ウスター（Worster, 4.2.10）、イヴィシャムの谷（the Vale of Evesham, 4.2.10）、グランサム（Grantham, 5.1.64）、ストランド（Strand, 5.2.282）、セント・ジェイムズ（St. James, 5.2.282）、後者ではアバディー（Abberdeen, 2.2.194）、ハイランズ（the Highlands, 4.1.4）への言及がある。

これらが主な相違点であるが、以下、『スコットランド人ソーニイ』独自の喜劇性を醸し出していると思われる要素を、主人と召使い（ペトルーキオならびにマーガレットとソーニイ）、姉と妹（マーガレットとピアノカ）、夫と妻（ペトルーキオとマーガレット）の対話の順で具体的に確認したい。

先ず、主人と召使いの対話から見てみよう。ペトルーキオとソーニイの対話には、スコットランド人であるソーニイの国民性・風習を揶揄したものが多い。ソーニイは、からかわれることを期待される、「いじられ役」であると言える。2人が初めて舞台上に登場する場面で、ペトルーキオは開口一番、スコットランド語風に訛ったソーニイの英語についての苦情を述べる。

ペトルーキオ えい、スコットランド語は捨てて、俺に英語を喋ってくれ。あるいは、せめて英語らしい言葉で。

ソーニイ へい、そういたします、旦那様。 (第2幕第1場1-3行)

ペトルーキオがからかうのは、ソーニイの訛りだけではない。第2幕第2場の会話から判断すると、常日頃から頻繁にソーニイに向かって「スコットランドに帰れ」と言っているようである。ソーニイは、そのことについて冗談っぽく不平を述べるが、ペトルーキオのもとに留まってマーガレットの暴力に耐えるのと、スコットランドに帰るのと、どちらが自分にとって良いことか自問自答しながら台詞を締めくくる。

ソーニイ ちえっ、そんで、旦那はソーニイに小銭を渡して、またスコットランドに行ってこいと言うんだわさ。

ペトルーキオ おい、ソーニイ、俺はそれほどお前を不親切に扱ったことなどないじゃないか。

ソーニイ ちえっ、旦那、がみがみ女王なんかと絶対に一緒にいたかあなかですばい。そんなことができるようでしたら、悪魔に両耳を落とされてもよかです。口うるさい女と面突^{つら}き合わせて挑むのと、スコットランドに里帰りするのと、どっちが悪いでっしょか？

(第2幕第2場147-52)

果たして、女主人マーガレットに仕える立場になったソーニイの身に災難が降りかかる。ソーニイは、スコットランド語風に訛った英語で他人の会話に割り込む出しゃばりな登場人物であるが、ペトルーキオとマーガレットの舌戦に下品な合いの手を入れたことが災いして、マーガレットから罵声を浴びせられながら、殴打される。

マーガレット あたいがあんたに似合うですって？ 焼き網のような顔をして、土堀にくつつけられた蝋燭の端みたいな鼻、それに玉じゃくしを使ってミルクポリッジを食べるような口をしているくせして。へえ～、あなたの顔は私の胃がびっくり飛び出して見に来るくらい変なのねえ。

ソーニイ こりゃ、彼の顔を見て胃がむかつくちゅうなら、彼のケツン穴を見た日にゃ、奥さん、あんたどげんなるとね？

マーガレット こら、こっちに来な、アバディーン野郎、これでも食らえ（ソーニイの耳にげん

こつを食らわす) あんたの番になってからしゃべりな!

(第2幕第2場187-96行)

ここには、ペトルーキオのからかい以上に、スコットランド人としてのソーニイの出自を嘲笑する差別的な響きが認められる。

次に、姉と妹の対話を見てみよう。マーガレットとビアンカの対話には、より暴力的で手ごわくなった姉の妹に対する支配力を見せつけるものが多い。シェイクスピアの第2幕第1場もキャタリーナがビアンカをいたぶる様子を描いているが¹⁶⁾、『スコットランド人ソーニイ』の同じ場面は以下のようなものである。

マーガレット えい、高慢な娘め、こっちへ来な。姉の前で、あんたが綺麗に着飾らないといけないっていうの? あんたは皆の人気者だわ、全く! でも、私とあんたとの距離ってものを知らしめてやるわ。そのネックレスをよこしな! それに、そのペンダントも! その服も、私がもらう! この古いハンカチはあなたに十分お似合いだから、取っときな。

ビアンカ さあ、受け取って、お姉様。こだわりなく、全部放棄しますわ。あなたの優しさが得られるのでしたら、私が持っているものを全部、差し上げますわ。

マーガレット へつらい上手なジブシーめ。私はあんたの偽りの舌を切り刻むところを想像できるわ。こっちへ来て、どの求婚者が一番好きか、嘘をつかずに言いなさい。言え! さもないと、身体中ぶったいてやる。それから、妖精のように、あんたをつねってやる!

ビアンカ 信じてください、お姉様。本当に私、どんな男の人でも、ある特定の方の顔を他の方の顔より好きになったことは、これまで一度もないわ。

(第2幕第2場1-16行)

王政復古以降は職業的女優が公の舞台に立つことが許されたという事実を踏まえると、このやりとりは、生身的女優たちによって現実味と迫力を伴って演じられたに違いない。残念ながら、『スコットランド人ソーニイ』初演時の配役表は残っていない。しかしながら、凶暴さを増した姉マーガレットと大人しい妹ビアンカが、ネル・グウィンとレベッカ・マーシャルといった犬猿の仲で知られた女優たちの組み合わせによって演じられたとすれば、この場面は多分に楽屋落ちであった可能性がある。

最後に、夫と妻の対話を見てみよう。ペトルーキオとマーガレットの対話では、よりエスカレートしたペトルーキオの嫌がらせが執拗に繰り返される。たとえば、シェイクスピアの第4幕第3場に相当する場面は以下のようなものである。

ペトルーキオ お前に酒の飲み方を教えてやろう。お前はそれを学ばにゃならん。さもなくば、俺の女房なんかじゃない。ほら、ペグ、心からお前に、なみなみとついだビールだ、歓迎するぞ。俺の義父^{おやじ}の健康を祝して、ペグ、お前も誓うのだ。

マーガレット 食べないと飲めないわ。気分が悪くなりそう。

ペトルーキオ ふん、ふん、そりゃ思い込みでしかない。さあ、飲み干せ。でないと、今月は飲

¹⁶⁾ 第1・2折本には、“Strikes her”ならびに“Flies after Bianca”というト書きがある。

みも食いもしてはならん。

マーガレット これを飲んだら、ベッドに行ってもいい？

ソーニイ ちえっ、奥様、ソーンディにちょっと飲ませちゃらんね？

ペトルーキオ その件は別の折に言うんだな。 (マーガレットは飲む)

さてと、ほら、ペグ、ここに俺が自分で詰めたパイプがある。座って、火をつけろ。

マーガレット 私を単なる雇われ馬みみたいに扱う気？ 一体どうして、あんたの汚いタバコを吸わせるの？

ペトルーキオ いや、そう恥ずかしがるなって。お前、気に入ると思うぜ。さあ、行こう。若いお嬢さんはしばしば歯痛に悩まされる。それで、寝床の中でタバコをふかす。俺たちの間では、良い連中には見えないけどな。さあ、パイプを持て。さもないと、眠らせんし、肉もやらんぞ。聞こえているか？

マーガレット ええ、悲しいほどに。こんな風にいたぶられたくないわ。 (泣く)

(第3幕第3場36-56行)

ペトルーキオは、このような性的嫌がらせまがいの扱いでマーガレットを調教する。ただし、これで簡単に屈服しないのがマーガレットの特徴であることは先にふれた通りである。第5幕におけるマーガレットの逆襲はフレッチャーの『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らされて』を下敷きにしながら展開してゆくので、ここで詳しく解説することは差し控える。だが、『スコットランド人ソーニイ』が独自の喜劇性、観客の印象に残るような名場面を作り出したとすれば、シェイクスピアの粉本だけではなく、フレッチャーの粉本を基にして、妻の夫に対する戦いを描くことを選択した劇作家レイシーの面目躍如ということになるであろう。

以下、『スコットランド人ソーニイ』の翻訳を読めば、いかにレイシーが粉本から膨らませて劇を書いたかが一目瞭然であろう。

刊本と翻訳

翻訳においては、Sandra Clark (ed.), *Shakespeare Made Fit: Restoration Adaptations of Shakespeare* (London: Dent, 1997) 所収の John Lacy, *Sauny the Scot: or, The Taming of the Shrew* を底本とし、James Maidment & W. H. Logan (eds.), *The Dramatic Works of John Lacy* (New York: Benjamin Blom, 1967) を適宜参照した。また、本文中でふれた作者未詳の『じゃじゃ馬馴らし』は、Anonymous, *The Taming of a Shrew, 1607 (Q3): A Facsimile Series of Shakespeare Quartos* (Tokyo: Nan'un-do, 1975)、シェイクスピアの『じゃじゃ馬馴らし』は、William Shakespeare, *The Taming of the Shrew* (The Cambridge Shakespeare), ed. Ann Thompson (Cambridge: Cambridge UP, 1984)、ジョン・フレッチャーの『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らされて』は John Fletcher, *The Woman's Prize; or The Tamer Tam'd*, in *The Dramatic Works of Beaumont and Fletcher*, Vol. 8, (London: T. Sherlock, 1778) を、それぞれ底本とした。翻訳に際しては、ウィリアム・シェイクスピア／小田島雄志 (訳) 『じゃじゃ馬ならし』(白水Uブックス) 白水社、1983年とジョン・フレッチャー／岡崎涼子 (訳) 『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らさ

れて』早稲田大学出版部，1995年を適宜参照した。

この度の『スコットランド人ソーニイ』の本邦初訳では，大和が準備した試訳に小林と杉浦がコメントを寄せた後，大和・小林・杉浦の全員でそれらの指摘点をつぶさに検討し，細部にわたって修正を施すという方法を採用した。従って，原文の解釈については3名の共訳者が等しく責任を負い，訳文の文体と表現については主に大和に責任がある。解説の執筆は大和が担当した。解説において，レイシーの伝記については，*The Dictionary of National Biography* に教えられる点が多かった。

ジョン・レイシー作 スコットランド人ソーニイ

登 場 人 物

ロード・ボーフォイ： マーガレットとビアンカの父親

ウッドオール： 裕福な老市民

ペトルーキオ： マーガレットの求婚者

ジェラルド： ビアンカの求婚者

サー・ライオネル・ウィンラブ： 田舎紳士

ウィンラブ： サー・ライオネル・ウィンラブの息子

トラーニオ： ウィンラブの召使い

スナッチペニー： けちなこそ泥

ジェイミー： ウィンラブの召使い

ソーニイ： ペトルーキオのスコットランド人従者

カーティス，ニック，フィリップ，その他のペトルーキオの召使いたち

マーガレット： ボーフォイの長女

ビアンカ： ボーフォイの次女

未亡人

第一幕第一場

ウィンラブとその召使いトラーニオ登場

ウィンラブ 田舎の生活にゃ，まったくうんざりだ。世間が「静けさ」と呼ぶつまらないもの

はあるが、その他は何もない。田舎者はそこで生きて、死んでいく。そいつの魂は、人目がつかぬようこの田舎に留まり、死後は名ばかりの存在になっちまう。我が寛大な星々は、（有難いことに）俺の心に活発な炎の羽根をつけてくれた。その炎は、男たるものが何のために生まれてくるのかを知りたいと思わせてくれたのだ。競走馬に減量食をとらせたり、鷹を放ったり、犬の名前を覚えたり。そんなのじゃ、男は作れない。そんなのじゃなくて、哲学、学問だ。何が善で徳のあることかを知るため、そして、我々の頑なで加減の効かない意思を打ち破り、善良で徳のある意思を選ぶために、推論の訓練をすることだ。それが、俺たち男を作り上げるあの偉大なる神性を、俺たちに模倣させることになる。

トラーニオ 私ゃ、あなた様がオックスフォードで十分に哲学を学んでいらしたと思ってました。こっちのアリストテレスと、あっちのビール瓶との間で、あなた様は田舎の紳士として身を立てるのに十分な学問と徳のレベルに達せられた、つまりは、一家の柱になれるってことを、きっぱり断言できます。

ウィンラブ 父上の溺愛が、こうも長らく俺を田舎に留めてしまったおかげで、大学で学んだことはすっかり忘れてしまった。それに、田舎暮らしはどんなに良くとっても我々を粗野にする。ああ、もういやだ。ロンドンこそが最適の高等教育機関だ。俺たち男を最も磨き、俺たちの田舎学問につやを出す。やっとここまで考えが到達した。悪徳をたくさん積む決心をせねば。トラーニオ、これまでお前は俺の側にいてくれた。俺たちは、同じ一つのベッドで寝て、同じ一つのテーブルで食事をしてきた。血統が俺を上位にしているとはいえ、（そいつは運だと俺は思うが、）俺の愛情は我々を同等にしてきたし、お前の方も、率直な付き合いで返してくれたな。

トラーニオ そんなことをおっしゃっては、まじめな返事をしないといけませんね。それでは申し上げますが、あなた様の親切心が物語りますように、私もあなた様に好意を寄せねばなりません。あなた様が教えてくださった良き事柄は、あなた様のことを誇りに思うよう、この私に命じております。あなた様と共に行動して、私は、忘恩を嫌うことを学びました。でも、それらは一先ず措くことにいたします。というのも、私がそんなことにこだわっているように見えるかもしれませんがね。ご安心ください、私自身のために申し上げますが、私はあなた様に好意を寄せねばなりません。たとえあなた様に嫌われているとしても。私はあなた様に悪徳も美徳も見出しませんが、あなたこそ私が変わらずお慕い申し上げるお方です。

ウィンラブ もうよい。お前が俺に好意を寄せてくれていることは分かった。それを信じよう。だが、ジェイミーのやつは、随分と俺たちに遅れをとっているようだな。ちょいと一つ走りして、申し分のない宿を見つけてきてくれないか。この町が俺に導いてくれる友を受け入れるにふさわしいような宿をな。万事用心するんだぞ。というのも、俺は自分の研究に没頭するよう、腹を決めたからな。俺は優雅に生きるぞ。我が資質を超えて高すぎず、かといって、低すぎることはないように。

ボーフォイ、マーガレット、ピアンカ、ウッドオール、ジェラルド登場

だが、ちょっと待て。何だ、あの連中は？

ボーフォイ 紳士の方々、もうこれ以上、わしを責めないでください。お分かりの通り、わしの決意は固い。長女に夫が見つかるまで、次女は差し上げられぬ。もしご兩人のどちらもベグを愛していらっしゃるというのなら、どうかお好きなように、求愛なさるがいい。というのも、わしはお二人をよく存じ上げ、十分好意を抱いているので。

ウッドオール つまりは、我々は、自分たちの頭をかち割られる許可をもらうことになるのですね。親切の極みです。誓って、彼女はあまりにも私の手に余るでしょう。だから、ジェラルド、もし妻を娶りたいという気があるなら、僕の代わりに彼女を引き受けてくれないか。彼女と比べて、君は若い。君なら彼女に足かせをはかせられるかもしれないし、そのうち、彼女を打擲してペースに合わせられるかもしれない。僕は、彼女を取り扱おうなんて思わないよ。全速力で駆け出して、手に負えなくなっちゃうなんて真っ平ご免さ。

マーガレット お父様、なぜこのように、こんな卑しい毒虫に毒づかせておおきになるのか、不思議ですわ。

ジェラルド お嬢さん、毒虫と言いましたか？ 実際、あなたはちょっとおとなしくならなければ、寄りつく虫は一匹もいなくなって、伴侶が持てなくなりますよ。どうどう、あなたを御せる男こそ値打ちがある。

マーガレット いいこと、あたいはあんたのために、あんたの子牛の頭を割ることなんかしないわ。あんたが伴侶ですって？ さあ、こっちに來な。これから、お針子の所に行って、彼女と一緒にたくさん精を出し、あんたの鼻を乾かすハンカチをたくさん買い求めるがいいさ。そして、しまいには、その借金を払うために、彼女と結婚する羽目になればいいさ。[ウッドオールに向かって] それから、そっちのあんた、カブばかり食ってて善良そうなあんた、雄牛から作られた皮製品みたいにごつごつした感じのご面相¹⁷⁾のあんたの方は、台所の女中と呼ばにやってその顔に油を塗らないと、この湿^しっ気の多い時にカビが生えてしまうわ。その顔は、誰のおんぼろブーツから切り取られたのかしら？

ジェラルド 願わくば、そのようなペチコートを着たあらゆる悪魔たちから、我々を救いたまえ。トラーニオ 旦那、これほどのものをかつて見たことがおありですか？ あの女子は正真正銘のおなごの気違いか、素晴らしいほどの跳ねっ返りだ。

ウッドオール はて、そうかのう。彼女の持参金だけもらえるのなら、わしはチャリング・クロス¹⁸⁾で毎朝、鞭で打たれてもいい。

ジェラルド おっしゃる通り、腐ったリンゴを食べたがる男は、まずいませんからね。しかし、このような成り行きになりましたからには、恋^{ライヴァル}敵同士が手を組んで、マーガレットに夫を見つける骨を折ろうではありませんか。そうすりゃ、ビアンカは自由になって、夫をもてるようになります。そうなった暁には、夫は彼女を勝ち取って、好きなように使えるというわけです。

ウッドオール あの女子^{おなご}に見事に求愛してくれる男が現れたら、スミス・フィールド^{いち}一の駿馬

¹⁷⁾ 原文では“Phisnomy”とあり、ここでは人相を話題にしている。

¹⁸⁾ 現在のトラファルガー・スクエアの南端。当時、犯罪者たちはここで公開処罰（時に公開処刑）を受けた。王政復古後の1660年に、国王チャールズ1世の死刑執行令状に署名したトマス・ハリソンなど8名の者たちが大逆罪の廉で処刑されたのも、この場所である。

をくれてやるがなあ。あいつに求愛して、結婚し、床入りし、あいつをあの家から追い出して、十分遠い場所まで連れてってこれればいいのに。よし、参ろう、承知した！（退場）
トラーニオ しかし、失礼ながら旦那様、愛の神が突然そのようにあなたを支配するなんてことが本当にあり得るのでしょうか？

ウィンラブ ああ、トラーニオ、俺だってこれまではそんなことありっこないと思っていた。だが今、それが真実だと分かったのだ。それにしても、あの娘は何とチャミングで、魅力的だったことか。彼女を愛さない男がいたとしたら、石みたいは無感覚な奴だろう。トラーニオ、この俺は、あの娘を勝ち取るまで、身体中に火がつき、燃えて、恋焦がれ、恋に死ぬぞ。大事なトラーニオよ、相談相手になってくれ、そして、この俺を助けてくれ。

トラーニオ 学問を求めようとするあなた様の決心はことごとく、こんな結末に至ったのですか？ ご自身におあつらえ向きとなる本を一冊手に入れたばかりに、あなた様は立派なヴァーチュオーゾー学者におなりになるようだ。さあ、私もは薬屋の所に行って、惚れ薬、恋の粉薬、溜め息と緑色のキツツキから抽出したエキスを求めなければなりません。ご主人様の興味が常に恋に向くようにするために。

ウィンラブ やめてくれ、トラーニオ、俺の心情をからかわないでくれ。この恋心は、ここのハート心臓に深く根を下ろしており、死ぬことはあり得ず、きっと墓まで持つて行くことになるに違いない。俺を助けてくれ、さもなくば、二度とお前の主人を見ようなどと思わないで欲しい。

トラーニオ はい、旦那様、あまりに手遅れのようにでしたら、何か他の道を見つけねばなりません。ですが、難しくなりますよ。お気づきのように、親父さんが娘を家に閉じ込めてしまいましたからね。彼が姉を手離すまで、妹の方に近づく手は何一つありません。

ウィンラブ ああ、トラーニオ、何と冷酷な父親なのだろうか。だが、彼が娘のために教師を見つけてやりたいと言っていたのを憶えていないか？

トラーニオ ええ、でも旦那様、何の教師でしったっけ？

ウィンラブ 馬鹿か、お前は。フランス語を教えれば、彼女に気に入られるに決まっているじゃないか。俺は語学が得意だから、難なくうまくいくかもしれない。

トラーニオ 楽にいくとは思いませんがね。と申しますのも、いったい誰がサー・ライオネルの息子として¹⁹⁾、町にいて、勉学にいそしみ、友だちを歓迎し、親類を訪問し、もてなすことになるのでしょうか？

ウィンラブ 心配するな。そのことも、ちゃんと考えてある。俺たちはまだどこにも顔を出していない。だから、俺たちの顔も、どちらが主人でどちらが召使いかも、誰も見分けがつかない。そこでこうしようと思う、トラーニオ、お前が俺の代わりに若きウィンラブとなり、俺の地位に見合った行動をするのだ。俺は、この町の辺りにいる普通のフランス語教師になる。かつてのフランス滞在が身を援けてくれることだろう。あとは実行あるのみだ。さあ、さあ、お前の服を脱いで、俺のとり替えるんだ。宿に着いたら、全部取り替えよう。ジェイミーが来たら、お前の召使い役にしよう。だが、先ず、やつ²⁰⁾の口封じをしよう。

トラーニオ やむを得まぜんなあ。あなた様のお望みとあらば、私はご命令に従わねばなりません。

¹⁹⁾ 「サー・ライオネルの息子として」とは、つまり、「あなた様として」という意味。

すまい。なにしろ、出発の時に、あなたのお父様がお命じになったことですから。とはいえ、まさかこんな意味でおっしゃったんじゃないとは思いますが。つまり、私はあなた様に仕え、あなたの企てを支える準備ができております。

ジェイミー登場

ウィンラブ あっ、あいつだ。おい、どこをうろついていた？

ジェイミー どこをうろついていたかですって？ いえ、いえ、ご主人様、あなた様の方こそ、どこにいらしたのか教えてくださいよ。それに、トラーニオがあなた様の服を盗んだのですか？ それとも、あなた様が彼のを盗んだのですか？ はたまた、お二人で服の盗み合いをなさったのですか？

ウィンラブ おい、ここへ来い。ふざけている場合じゃない。ある大事なわけがあって、この服を着ているんだ。質問はするな。十分な頃合になったら、わけを話してやるから。それまで、俺にではなく、ごく自然にトラーニオに仕えてくれ、頼む。俺の言うことが分かったか？

ジェイミー 私がですか、旦那様？ いいえ、ちっとも。

ウィンラブ それと、こいつのことを一言でもトラーニオと呼んではならんぞ。トラーニオはウィンラブになったのだから。

ジェイミー いいなあ、こいつ。俺だって、なりたいや。

トラーニオ 俺と二人きりの時は、もちろん俺はトラーニオのままだ。だがそれ以外の場所では、お前の主人ウィンラブ様だ。

ウィンラブ 行くぞ、トラーニオ。そうだ、もう一つ、お前に頼みたいことが残っている。決して忘れてはならないことだ。つまり、あの娘の争奪戦の、求婚者の一人になってくれ。なぜかと尋ねず、立派なわけがあると思って満足してくれ。

トラーニオ 承知しました、旦那様。 (全員退場)

第二幕第一場

ペトルーキオとその召使いソーニイ登場

ペトルーキオ えい、スコットランド語は捨てて、俺に英語を喋ってくれ。あるいは、せめて英語らしい言葉で。

ソーニイ へい、そういたします、旦那様。

ペトルーキオ ソーニイ、俺たちはかれこれ3時間かかって20マイル進んだと思うが、馬たちの荷を下ろして、十分さすってやったか？

ソーニイ 畜生っ、旦那様、自分の身体をかく以上に、だんなの老いばれ馬たちを上手にさすりやした。

ペトルーキオ だから、自分の身体をかく必要があると言うのだな、獣みたいなやつめ。その

痒い痒いを治したらどうか？

ソーニイ 畜生っ、旦那様、千ポンドもらったって、じえったいに直したかあありまっしえん。身体をかくのが嫌いな若者あ、スコットランドじゅう探してみても、一人もいまっしえん。引っかいたり、かいたりすることがなかりゃあ、ソーニイは自分で首をくくるかもしれまっしえん。

ペトルーキオ どうして、そう言うんだ？

ソーニイ 旦那様なら、腹ペコでも陽気で、お嬢様の家にたどり着きゃ、いい肉にありつけるでっしょう。ですが、畜生っ、旦那様、ソーンディを迎えるのは飢えと寒さだけで、そんな時や、旦那様、召使いたちはみーんなじっと立って、ニタリと笑う以外、何もできまっしえん。そんなソーンディの楽しみといえは、引っかいたり、かいたりすることなんでさあ。

ペトルーキオ そりゃ、楽しみと呼べるものかね？

ソーニイ ええ、旦那様、心底楽しいもんですばい。引っかいたり、かいたりするこたあ、すっげえ楽しいもんでさあ。旦那様たちが冗談を言って楽しむのと同じですばい。

ペトルーキオ ああ、そうなら、続けるがいい。お前のためになるのならば。ここは俺の昔の友人ジェラルドの家だ。そいつのために、俺は今、町まで出てきたんだ。やつが家にいればいいがなあ。ソーニイ、叩くんだ。

ソーニイ ちえっ、旦那様、あなた様の前にゃ、誰も見当たりまっしえんが。

ペトルーキオ 馬鹿野郎、この門の所で力いっぱい叩けと言っているんだ。

ソーニイ ちえっ、ちえっ、畜生、旦那様はあっしに旦那様をぶんぐらせるおつもりなんです。そしたら、旦那様はきっとあっしを袋叩きになさるでっしょうよ。旦那様のためにも、じえったいそんなこたあ、したかあなかですばい。旦那が善良な方であらっしゃらあ、こんなことあできまっしえんよ。あっしが善良なご主人ならあ、こんなことあしまっしえん。

ペトルーキオ 馬鹿野郎、言うことを分からせてやる。 (ソーニイを叩く)

ソーニイ 畜生っ、あなた様はあっちでもソーンディに一発お見舞いなさるかも。だでえ、旦那様、あっしはあっちへ行って、自分でひとかきすることもできまっしえん。

ペトルーキオ そうだ、こんな風にかくこともな。

ソーニイ 悪魔んやつが旦那様の指ん機嫌をとってくれりゃよかあですのに。あっしは、旦那様のごつ、モグラ塚ん上で勝ち誇ったりできまっしえん。スコットランドで旦那様と再会したとしても、あなた様のお耳にゃ、これっぽっちの情報も入れちゃりましえんからね。

ジェラルド登場

ジェラルド どうした、ソーニイ？ 何だ、大声で泣いているのか？ 親愛なるペトルーキオ、大いに歓迎するぞ。いつ町に来た？ 君とソーニイとの間で、どんないさかいだい？ 君たちの喧嘩は僕に預らせてくれ。さあ、どういう嬉しい風の吹きまわしで、君は町にやって来たんだい？ それに、どうしてそんななりをしているんだい？ お悔やみごとか？

ペトルーキオ 俺たち若者にはよくある災いだ。俺の親父が死んで四ヶ月になる。

ジェラルド 本当に、気の毒なことだ。善良な老紳士であられた。

ソーニイ 門へ急ぎなさいまし。旦那、門へ急ぎなさいまし。悲しみを偽るやつあ、友達でも何でもありやしない。俺たちや、痩せてるばってん陽気でさあ、旦那。俺たちや、そんなこと悲しかあありませんばい。

ペトルーキオ 馬鹿者っ、ぶたれたいようだな。

ソーニイ いえ、滅相もございません、旦那様。

ペトルーキオ ここへは運試しにやって来た。幸運と俺の友だちが女房を引き合わせてくれないかと思ってな。俺に紹介したい女房候補はいないか？

ジェラルド どんな条件で？

ペトルーキオ そうさな、金^{かね}、十分な持参金だ。

ジェラルド 条件はそれだけか？

ペトルーキオ それだけかって？ 他の条件はことごとく思案中だ。

ジェラルド じゃあ、率直に言うが、金持ちの女房をもらいたくはないか。でも、彼女の顔は――

ペトルーキオ 俺は小さな傷は気にしない。仮面^{マスク}をつければ済むことだ。俺の求婚の歌に伴奏をつけるのは金^{かね}の音なのだ。金持ちでありさえすりゃ、その女に鼻や目が無くたって構わない。金さえあればな。

ソーニイ 旦那様あ、そんなやつあ、いっちゃん信用できんとやなかですか？ 奇特定のいつに2万ポンド持ちよるスコットランドの女子^{おなご}を紹介しまっしょうか。いやあ、そいつはそんな女子^{おなご}とは決して一緒になったりゃ、しまっせんでしょうよ。

ペトルーキオ おい、お前らの2万スコットランドポンドは、イングランドポンドだと、雀の涙になるんだぞ。

ソーニイ そうですばってん、旦那様あ、スコットランドポンドたくさんっちゅうのは、イングランドポンドちょっとと同じくらい、よかあですよ。

ジェラルド あの女はそんな程度^{レベル}じゃない。もっと悪いんだ。その舌ときたら、築^{ビリングズゲート}地で動き回っている者皆が立てる音より騒がしい音を立て続けるんだ。

ペトルーキオ ふん、どうでもいいことだ。その女はどこに住んでいるのだ？ 俺はすぐにでも求婚したい。その女の舌と俺一人で戦わせてくれないか？ そのような話を聞き、惚れられた。どんな女だ？ どんな女なのだ？ その女に決めたぞ。さもなくば、誰とも結婚せぬ。

ジェラルド でも、飛び乗る前に、ちゃんと用心して見ておかないと、君、ほら、言わんこっちゃないってことになりかねないぞ。

ソーニイ へっ、へっ、彼女に乗っかって、首をへし折られんとも限りましえんばい。そう、あなた様がかわいい小娘に挑む前に、あっしのかわいい若者を当て馬として、先ずは当てがってみまっしょうよ、旦那様。

ジェラルド 父親は勇敢な貴族ボーフォイで、娘の名前はマーガレット。町中に、じゃじゃ馬の悪名が知れ渡っている。

ペトルーキオ この町は見る目がない馬鹿者だ。おい、その家まで案内してくれないか。その娘に会うまで、俺は寝ないぞ。父親の名前は知っている。いや、俺は腹が据わってる。さあ、さあ、連れてってくれ。

ソーニイ ちえっ、で、もし彼女がかさぶた娘だったら、追っ払いましょう、そうしまっしょ。
ジョニー・ジョンストンの呪いが彼女に乗り移るがいい。

ジェラルド すまんが、そりゃどんな意味だい？

ソーニイ つまりは、悪魔が彼女の夢の最中に忍び込めっち意味でしゅ。そいつが、実際、彼女の頭の子守唄になるんでさあ。

ジェラルド さあ、君、腹が据わっているんだったら、一緒に付いてってあげるよ。実を言えば、それは随分と僕の有利に働くんた。もし君が彼女をものにすれば、僕はその妹、愛しのビアンカと自由に会えるようになるからね。僕は彼女の美しい目の崇拜者なんだ。そして、君は僕の恋を成就させるために、僕を助け^{わけ}てくれ、ペトルーキオ。老ボーフォイに、僕を音楽の教師として推薦してくれないか。その理由とやり方は君に話すからさ。

ペトルーキオ 言ってることが分からんなあ。

ソーニイ やつは、あなたに彼女との取り持ち役をさせる魂胆ですよ、旦那様。そうなりゃ、あなた様は、ソーンディに彼女との取り持ち役を命じることになりまっしょ。畜生、あつしは、そんなふう^にに彼女の本音を出させることになるんでさあ。

ペトルーキオ こらっ、静かにしろ。君のために、俺ができることはしてやろう。だが、誰か来るぞ、ジェラルド。

ウッドオールと変装したウィンラブ登場

ジェラルド あれはウッドオール氏、金持ちの老人で俺の恋敵^{ライヴァル}だ。シーツ、静かに。

ソーニイ こりゃまた、老けた奴が可愛い娘と一緒にになったっち、どうしようもなかつもん？
あんた、老いた盗人^{ぬすっと}かい、旦那あ？

ウッドオール 何じゃと！

ソーニイ あんたあ、老人じゃなかかい、旦那？

ウッドオール お前さん、いかにもそうじゃが。

ソーニイ それに、若い乙女^{むすめ}と結婚するつもりじゃなかかい？

ウッドオール いかにも。で、それが何か？

ソーニイ それに、純然たる悲しみに見舞われたいと、思っちょらせんね？

ウッドオール 純然たる悲しみ？ 純然たる悲しみって、何じゃ？

ソーニイ [傍白] 腹^むん下んところの弱さが悩みだってことだよ。若い乙女^{むすめ}相手に、役に立つ^ちと言えるん？ ひっ、ひっ、ひっ。

ウッドオール [ウィンラブに向かって] よいか？ お前のフランス語の本は、恋愛の機微を扱っておる。彼女にもそれらを語って聞かせるのだ。そして、ときおり、わしの愛と長所について何か、強調しておいてくれ、彼女の父親からたつぷりと謝礼が出るだろうが、わしとて気前がよいことが分かるだろう。

ウィンラブ 旦那様^{ムッシユ}、わたし、あんたのとても素敵なこと、彼女に言ってあげよう。わたし、彼女があんたのこと好きになるよう、ちてあげよう。彼女がそうなれるか、なれないか、分からないけど。

ウッドオール 十分だ。静かに。ジェラルドがやって来る。これは、旦那、ご機嫌よう。この紳士を連れて、サー・ニコラス・ボーフォイのところにちょうど向かっておるところでな。

フランス人で、母国の言語を教えるのに傑出した技術をお持ちだ。

ジェラルド 私も、ピアンカのためにと、教師をお連れしているところなのです。でも、それはさて置き、あなたにお知らせしたいことがあります。友人の一人が、マーガレットに求婚することになりそうなんです。そのことでそいつが雇われるとしたら、どれくらい出しますか？

ウッドオール そうさなあ、その手にコイン40枚渡してもいい。そして、見事なし遂げた暁には、そんなじゃなくて、額を2倍にしてやろう。

ジェラルド よし、決まりだ。乗ったぞ、旦那。

ソーニイ [傍白] ちえっ、旦那、俺ならもっと安くで引き受けるばい。20ポンドで、私や自らその役を買って出ますよ。

ジェラルド さあ、金を出した。これで、取引成立だ。

ウッドオール じゃが、万一、失敗したら？ わしゃ、そのような大金を溝に捨てたくないぞ。

ジェラルド 失敗したら、そいつに返金させますよ。

ウッドオール ほう。それでは、ここにコイン10枚ある。それに、コイン40枚分の形としてこの指輪も。そいつは、コイン10枚分の価値がある。じゃが、その紳士はあの女の性格を知っておるのかな？

ペトルーキオ [傍白] 知ってるともさ、旦那。俺のお好みの性格だよ。何をもらったって、それ以外の性格の女に言い寄りたくはない。

立派な服を着たトラーニオがジェイミーと共に登場

トラーニオ ごきげんよう、紳士の方々。すみませんが、サー・ニコラス・ボーフォイの家へは、どうやって行けばいいのですか？

ウッドオール おや、旦那、そこへはどんなご用向きで？ 彼の娘のどちらかに仕えたいとおっしゃるんじゃないでしょうね？

トラーニオ お前さんの質問にはどこかぶっきらぼうなところがあるが、たぶん、仕えたいと言うでしょうな。

ペトルーキオ とにかく、がみがみ屋の娘の方じゃないでしょうね？

トラーニオ 私はがみがみ屋は嫌いだな。さあ、ジェイミー。

ジェラルド どうか、足をお止めください。もう一方の娘ですか？

トラーニオ たぶん、そうでしょうなあ。何かご不快なことでも？

ウッドオール ええ、いかにも、旦那。彼女は私が妻にと決めた人なんです。

ジェラルド 言っとかねばならんが、彼女は私が妻にと決めた人でもある。

トラーニオ それに、ご両人に言っとかねばならんが、彼女は私が妻にと決めた人です。これで、ご満足かな？ いや、このことで顔をしかめるのはお止め下され。

ソーニイ それに、皆さんに言っちゃかねばなりませんが、それじゃ、ソーンディに望みはほとんどありませんな。

ウィンラブ ごろつきにゃ、望みは減多にない。

ペトルーキオ いや、いや、紳士の皆さん、喧嘩はお止めなさい。それが目的でないのなら。

あなたはその若いお嬢さんに会ったことがおありかな、旦那？

トラーニオ いいえ、旦那。でも、彼女の性格に恋に落ちました。噂では、彼女には嵐のように激しい姉がいるとか。

ペトルーキオ お願いだから、旦那、そんなことを言わんでくださらんか。その荒々しい貴婦人は、私が妻にと決めた人なのです。そして、私が彼女と結婚するまで、ビアンカが人前に姿を見せることはありません。彼女の父親がそう誓言したのでね。そして、その時まで、あなた方は皆、40歩離れておかねばならないのです。

トラーニオ そう忠告して下さい、有難う。さもないと、骨折り損になるところでした。あなたは我々皆のために尽くして下さいのおつもりだから、旦那、私はあなたの僕の数に入れていただけると嬉しい。

ペトルーキオ 私の方こそ、あなたの僕として受け入れていただけると光荣だ。だが、お願いですから、旦那、かような丁寧さでもって私を感謝させるあなた様がどなたか、教えてくださいませんか。

トラーニオ 旦那、私の名前はウィンラブと申します。ウスターシャーの紳士です。私はそこで、老人の死によって私が得ることとなった権利を得ました。少なからぬ遺産というものを。さあ、紳士の皆さん、落胆してはなりませんよ。少なくとも、あの美しいビアンカが自由の身になるまでは。酒場に行って、30分腰掛けて、彼女の健康に乾杯しようではありませんか？

ソーニイ そうしよう、我が同士よ。あなた方につきあって、私も一緒に飲むことにしよう。

ペトルーキオ よし、よし、決まった。さあ、行こう。それから俺は、俺が妻にと決めた人のもとへ行こう。

ソーニイ よし、あの貴婦人たちはソーンディと同じ気持ちだ。喧嘩より、一杯やりたいだろうさ。
(全員退場)

第二幕第二場

マーガレットとビアンカ登場

マーガレット えい、高慢な娘め、こっちへ来な。姉の前で、あんたが綺麗に着飾らないといけないっていうの？ あんたは皆の人気者だわ、全く！ でも、私とあんたとの距離ってものを知らしめてやるわ。そのネックレスをよこしな！ それに、そのペンダントも！ その服も、私がもらう！ この古いハンカチはあなたに十分お似合いだから、取っときな。

ビアンカ さあ、受け取って、お姉様。こだわりなく、全部放棄しますわ。あなたの優しさが得られるのでしたら、私が持っているものを全部、差し上げますわ。

マーガレット　へつらい上手なジブシーめ。私はあんたの偽りの舌を切り刻むところを想像できるわ。こっちへ来て、どの求婚者が一番好きか、嘘をつかずに言いなさい。言え！ さもないと、身体中ぶったたいてやる。それから、妖精のように、あんたをつねってやる！²⁰⁾

ビアンカ　信じてください、お姉様。本当に私、どんな男の人でも、ある特定の方の顔を他の方の顔より好きになったことは、これまで一度もないわ。

マーガレット　この嘘つき女っ！ 私には、あんたの歯が抜けて、あんたの喉へと流れ落ちる場面を想像できる。あんたがジェラルドを好きなことは知ってるわ。

ビアンカ　お姉様、あの方のことが好きなら、誓ってもいいわ、私からお話ししますから、あの方をご自分のものになさいませ。

マーガレット　ああ、それじゃ、あんたの好みはお金の方なのね。年寄りのウッドオールが好きなんだわ！

ビアンカ　あの年寄りの馬鹿ですって。嫌だわ、お姉様ったらずっと私のことをからかっていらただけなのね。分かったわ、私に腹を立てていらしたわけじゃなかったんだ。

マーガレット　これが冗談なら、後はずっと冗談じゃ片づかないものになるわよ。あんたに手を出す前に、言わせてやる！ この無駄話女め。

ボーフォイ登場

ボーフォイ　おい！ これ、これ、お前！ 何でこんな乱暴になった？ ビアンカ、奥へお行き。わしの可愛そうな娘よ、泣いておる。おい、ペグ、その悪魔のような気性を脱ぎ捨てろ！ お前の優しくて無実な妹をどうしていじめるんだ？ いつ、この娘がお前を怒らせる言葉を口にしたというのだ？

マーガレット　何も言わないで馬鹿にするから、そのお返しをしてやったまで。

(ビアンカ目がけて飛びかかる)

ボーフォイ　しかも、わしの目の前でやるのか？ あさましくて性根の悪いやつめ。さあ、行きなさい、ビアンカ、姉さんから離れるのだ。

(ビアンカ退場)

マーガレット　あら、私に容赦はしないっておつもり？ 今、分かったわ。妹はお父様の宝物だってことが。妹には夫を持たせないといけないのね。そして、私は、妹の結婚式に裸足で踊らないといけないってわけ²¹⁾。お父様の愛情が妹ばかりに注がれるので、私は猿を地獄に引き入れるとされる未婚女性のまま。お父様が私のことをどうお思いか分かったわ。妹と静かに過ごせる方法が見つかるまで、あっちに行って泣きます。

(退場)

ボーフォイ　わしほど災難に見舞われた哀れな男がかつていただろうか？

ウッドオールと変装したウィンラブ、リュートと何冊かの書物を抱えたジェイミー、それに、トラニーオ登場

²⁰⁾ 妖精は人間の身体をつねって悪戯をすることを考えられていた。

²¹⁾ 当時、次女が先に結婚する際、未婚の長女は裸足で踊るという風習があった。

はて、さて、どなたかな？

ウッドオール あなた様の僕しもべです、旦那様。私めがこちらを図々しくも訪問いたしましたのは、フランス語の学識深い教師であるこの紳士をあなた様に紹介するためであります。彼の名前は、ムッシュ・モギーエと申します。どうか、使ってやってください。

ボーフォイ 旦那様、私はあなたに負い目のある身。ムッシュ、よくおいでくださった。

ウィンラブ 私、謹んで、あなたにアリガトと言います、旦那。

ボーフォイ だが、この方はどのような紳士であられるのかな？

ウッドオール 彼の諸国遍歴を語れるほど親しいというわけではございませんが、ついて行きたいとおっしゃるのでお連れいたしました。彼に質問なさるのが一番よろしいかと。

トラーニオ 口を挟んで申し訳ございませんが、私はあなた様の美しく徳高き娘ビアンカさんの噂を耳にいたしました。何でも、この世の驚きだと誉めそやされている女性だそうで、名声が私を既に彼女の僕しもべにしております。上のお嬢様が嫁に行くまでは彼女への求婚を認めぬというあなた様のご決意は耳にしております。ですが、その間、他の方々同様、私の望みを活かし続けることをお認めいただけますまいか？ 旦那様、リュートとフランス語のロマンス小説を何冊か持参しており、お嬢様に差し上げたいと思います。

ボーフォイ 旦那様、有難いことだ。どうか、あなたのお名前は？

トラーニオ ウィンラブと申します。サー・ライオネル・ウィンラブの息子であり、相続人です。

ボーフォイ わしの気高き友人だ。彼は、わしの学友である。彼ゆえに、あなたを心から最高に歓迎しよう。どうか存分に自由に振舞われるがよい。

ソーニイと変装したジェラルド登場

ソーニイ さあ、こちらへ、旦那。あつしが話をいたしやす。はて、主はどちらにおいで？ あるじ

ボーフォイ ここですが、どなた様で、どのような用件で参られた？

ソーニイ はて、旦那様、私あたしや、よか兄せえのスコットランド人でござえましゆ。

ボーフォイ スコットランド人？ それだけか？

ソーニイ ちえっ、私がケルビムあたしを連れておきゃあよかのにと思っちょらすとですか？ 旦那様、私あたしや、ちょっとした土産物みやげもんば、持って来ちよりますばい。

ボーフォイ じゃが、スコットランド人よ、聞いておるか、お前さんは上の者と話す時には帽子を取ることに慣れておらんのか？

ソーニイ いやあ、スコットランドじゃ私らあ1日んうちで初めて人に会った時に「おはようさん」っち言ゆーて、帽子を取るばってん、さあーつとまた帽子をかぶり直すとです。ばってん、旦那様、私あたしや、ちょっとした土産物みやげもんば、持って来ちよりますばい。

ボーフォイ わしに？ それをどこにお持ちで？ お前さんの土産物は誰からのものだ？

ソーニイ ええ、我が善良な主人であるペトルーキオ様からのものです、旦那様。あなた的美丽なお嬢様が笛を吹けるようにと、あなた様に、笛吹きを遣あされてござえます。[傍白] ばってん、もしお嬢たちへのご教示をソーニイに許してくれりゃあ、すげえ軽妙な音色を吹

かせちゃりたいなあ。頭ん中に齒が飛び上がる間も、お嬢たちの尻は決して拍子を外さんよう、リズムを取るばい。

ボーフォイ ペトルーキオとな！ 今、思い出したぞ。お前の主人はお元気か？

ソーニイ ええ、旦那様、彼はあなた様の娘さんの一人を嫁さんにしようと思っちゃるんです。つまりは、彼の女房^{かかあ}、彼の寝友達に。

ボーフォイ 生意気なごろつきめ！

ソーニイ 主人はいたって元気ですばい。そんな長い舌であんたのお嬢さんば扱いんしゃるおつもりやけん、悪魔とソーニイに怒りの矛先が向くっちゃねえ。ばってん、ほら、彼が話をしに来^きらっしゃった。

ペトルーキオ登場

ペトルーキオ ご機嫌うるわしく存じます。

ボーフォイ 気高いペトルーキオよ、よく来てくれた。娘たちへのそなたの親切に、礼を言うぞ。さあ、中に入ってくれ。

召使い登場

これら紳士の方々を娘たちの所に案内してくれ。娘たちには、先生方がいらしたと言い、礼儀正しく接するよう命ずるのだ。そのリュートを持って行きなされ。そこにある、それらの本も。ペトルーキオよ、親父さんを最近亡くされたと聞いたが。

ペトルーキオ その通りです。ですが、あなたが私のもう一人の親父になってくださればと思います。つまり、あなたにはマーガレットという名前の美しいお嬢さんがおありと聞きました。世間は彼女のことをじゃじゃ馬だと言っていますが、私はそうは思いません。ご存知のように、私には財産があります。あなたが私の人となりを入り、あなたの同意を得れば、私はあなたの義理の息子になるつもりです。

ボーフォイ そのような娘はいるが、わしは貴君に並々ならぬ好意を抱いており、その両手にゆだねたくはない。娘のために、気が狂ってしまうだろうから。

ソーニイ ええ、旦那様、主人は今でも目いっぱいいいかれちります。旦那様、全く救いようがないくらいに。

ペトルーキオ それでも、やってみましょう、お父さん。いずれ、あなたをそうお呼びすることになるかと思えます。お嬢さんの高慢さに負けず劣らず、僕も傲慢です。怒り狂う二つの炎が正面からぶつかり合えば、双方の怒りをあおる種もたちまち燃え尽きるもの。僕は親父の財産を殖やしこそすれ、使い込んだりはしません。ですから、お聞きしたい。僕がお嬢さんの愛を手に入れたら、どれだけの持参金をつけてくださるのでしょうか？

ボーフォイ わしの死後、わしの所有している土地の半分、それに結婚式の日に3千ポンド持たせよう。

ペトルーキオ では、私もそれに見合うだけの寡婦資産を彼女にお譲りすることを保障いたし

ます。証文を作成しましょう。きっとお嬢さんを連れて行くとお約束します。
ボーフォイ 貴君の身に幸運がふりかかりますように！

ジェラルドが血を流しながら登場

おや、おや、あなた、どうなされた？ 何か問題でも？ 娘はリュートの名手になりそうでしょうか？

ジェラルド いえ、あっぱれな棍棒の使い手です。リュートじゃ、彼女は手に負えない。

ボーフォイ じゃあ、あの娘にリュートを教え込むのは無理だと？

ジェラルド ええ、お嬢様はリュートで私をたたいて、壊してしまいました。弦の押さえどころが違っていると申し上げて、手をとって指の使い方をお教えしただけですのに。「あんたがこれを押さえどころと呼ぶのなら、（とお嬢様はおっしゃいました、）あたいはあんたにかっかくるわ」と言って、呆れるくらい見事に私の脳天を、リュートでガツン！ 私は晒し台にかけられた無防備な罪人のようでした。しかも、その上、ごろつきだの、やくざ野郎だの、与太郎だの、ガキだの、そのような悪口を雨嵐のごとく、大声で浴びせかけたのです。

ペトルーキオ ならば、世間にかけて、俺はこれまでの十倍も彼女のことが好きになった。

ソーニイ いやはや！ 旦那、その女子^{おなご}と結婚するっちゅうのは、悪魔とちょっといいないないばあをするようなもんですばい。そげな女子^{おなご}を旦那の花嫁にするっちゅう罠に、あっしなら決して2ペンスだって払ったりやしませんよ。

ペトルーキオ 言っとくがな、ソーニイ、俺たちは彼女のことで十分合意したんだ。

ボーフォイ では、あなたに償いをしよう。そのまま、下の娘に近づかれるがよい。妹には学おがある。ペトルーキオ、そなたも一緒に参られるか？ それとも、娘をここへよこしましょうか？

ペトルーキオ そうしてください。私はここで待っています。

[ペトルーキオとソーニイだけを残し、全員退場]

ソーニイ ちえっ、そんで、旦那はソーンディに小銭を渡して、またスコットランドに行っこいと言うんだわさ。

ペトルーキオ おい、ソーニイ、俺はそれほどお前を不親切に扱ったことなどないじゃないか。

ソーニイ ちえっ、旦那、がみがみ女王なんかと絶対に一緒にいたかあなかですばい。そんなことができるようでしたら、悪魔に両耳^{つら}を落とされてもよかです。口うるさい女と面突き合わせて挑むのと、スコットランドに里帰りするのと、どっちが悪いでっしゃか？

マーガレット登場

ペトルーキオ こらっ！ しーっ、彼女が来る。さあ、殴り合いの始まりだ！ [マーガレットに向かって] ああ、蜂蜜のように甘く、可愛いベグ、ご機嫌いかがかな、お嬢さん？

マーガレット さっ、こっちへ来な！ 口のきき方ってもんを知らねえ奴だね。可愛いペグだって？ あんた、どこの生まれだい！ あたいは、ミストレス・マーガレットと呼ばれてるんだよ。

ペトルーキオ いや、いや、ペグ、そりゃ嘘だ。君は皆から、ただのペグ、可愛いペグ、そして時には、じゃじゃ馬ペグと呼ばれているのさ。だが、聞いてくれ、君の荒々しさがあらゆる町で称讃され、君の美德がとどろき、君の美しさが人々の語り草になっているのを聞くにつけ、この俺は、君を女房にしようという気になったのだ。

マーガレット あたいは、あんたが軽い男だってこと最初から分かってたわ。

ペトルーキオ おい、軽いつて何だ。

マーガレット 安物の椅子みたいってことよ。

ペトルーキオ ペグ、うまいことを言う。それじゃ、俺の膝に座れよ。

マーガレット 人を乗せるのは口バ、そしてあんたもお馬鹿さん。

ペトルーキオ そうか、今こそ分かった。世間が君を随分誤解してきたんだと。乱暴で、高慢で、不機嫌な奴だと聞いていたが、君は愉快で、温和で、礼儀正しい。腹を立てた小娘がやるように、しかめっ面をしたり、口をとがらせたり、唇をかんだりなんて出来ない。君のすべてが、惚れ惚れするような存在だ。

マーガレット あたいを怒らせないで。ここで馬鹿にされて、じっと立っておくことなんてできないわ。

ペトルーキオ 君のことをちんばだと俺に言った奴は、何というごろつきだ！ 君はヤナギの枝みたいに真っすぐで、扱いやすい。ああ、何となくいまれな並足だろう！ おや、このフランス王の最高に立派な馬の前で、門が閉ざされているぞ。

ソーニイ それに、このスコットランド王の前でも。

ペトルーキオ ペグ、踊りのような軽やかな足運びをどこで習ったんだい？ 素晴らしく君に似合っているよ。

マーガレット 生意気なあんた、本当かしら？ 頓馬なあんたには端綱が似合うでしょうよ。

耳の腹側に、結び目で引き締める綱でもつけてみたら？

ペトルーキオ いや、結び目なんて一つも要らないよ、ペグ。君と僕との間に、婚姻の絆があればそれで十分だよ。素晴らしい「超お似合い馬鹿ツプル」になろうぜ。

マーガレット あたいがあんたに似合うですって？ 焼き綱のような顔をして、土堀にくっつけられた蠟燭の端みたいな鼻、それに玉じゃくしを使ってミルクポリッジを食べるような口をしているくせして。へえ～、あなたの顔は私の胃がびっくり飛び出して見に来るくらい変なのねえ。

ソーニイ こりゃ、彼の顔を見て胃がむかつくちゅうなら、彼のケツん穴を見た日にゃ、奥さん、あんたどげんなるとね？

マーガレット こら、こっちに来な、アバディーン野郎、これでも食らえ（ソーニイの耳にげんこつを食らわす）あんたの番になってからしゃべりな！

ソーニイ 畜生、あんたの悪い指に悪魔が乗り移って、あんたの代わりにその胸衣ダブレットを着りゃあいいものを！

ペトルーキオ 気をつけろ、ペグ、ソーニイはすてばちな奴だ。

マーガレット あんたたち主人と召使いは馬鹿ツプルだわ、絶対！

ペトルーキオ いや、いや、待ってくれ、ペグ。こうしてはいるが、実際、君のことが好きで、手に入れたいと思っている。実際、俺は君の僕だ。

マーガレット そうなの？ ええ、それじゃ、あんたに好意を示して差し上げますわ。こんなふうには、酔い心地になって。これがあなたの分。 (殴る)

ソーニイ ちえっ、こん野郎、スコットランドに帰っちゃる。畜生、こん女が旦那様を殴るとやったら、ソーンディは死んでしまうけんね。

ペトルーキオ もう一度やってみろ、こっちも本気で手を上げるぞ。

マーガレット そうなりゃ、あんたは紳士の面目丸つぶれよ。女を打てば、紳士じゃないわ。

ペトルーキオ ペグ、お前は紋章官か？ それじゃ、俺の紋章を解説してくれ。

マーガレット あんたの紋章なんか知らないけど、あんたのかぶと飾りは阿呆者^{クレスト あほうもの}だわね。

(立ち去ろうとする)

ペトルーキオ 止めろ、おいっ、その女を止めるんだ！

ソーニイ 行かせてやりましょうよ、旦那。悪魔二匹とスコットランドの魔女一匹が息吹きかけりゃ、あん女子^{おなご}の腹を風でパンパンに膨らませることができますばい。

ペトルーキオ 止めろ、貴様、その女を止めろと言ってるだろうが！

ソーニイ ちえっ、旦那、ご自身で止めんしゃい。でも、旦那、忠告するばってん、そんな女子^{おなご}の舌と同じくらい、そんな尻尾^{しっぽ}が動くんなら、鞭打ちを食らうばい、旦那。

ペトルーキオ お願いだから、ペグ、止まってくれ。君と真面目に話がしたい。

マーガレット 賢い言葉が出るようになるまで、随分と苦労すりゃいいわ。おつむを暖めるため、寝酒を手に入れたらどう？

ペトルーキオ お前のベッドで俺を暖めさせてやるぞ、ペグ。どう思う、ペグ？ これ以上の騒ぎなしに、はっきり言えば、俺は君の親父さんの同意を取り付けてるんだ。君の持参金は合意がなされ、君の寡婦給与も決定済みだ。それに、君自身に関して言えば、喜ぼうが喜ぶまいが、ただ一つ。君と俺は結婚する。俺はそう決心したんだ。

マーガレット えっ？ ちょっとこっちへ来てくれない？ 何と見下げた男かしら、私の許しなしに？

ペトルーキオ 君の許しなんか関係ない。手のかかる女には一騒動だ。君が満足しなくても、俺はそうするぞ。

マーガレット あんたを最初に罵ってやる。そうしてやるからね。今すぐにでも、この場所で、はっ！

ペトルーキオ 待て、そこにある棒をよこせ、ソーニイ。この手で、君の親父さんの前で誓わないなら、あばら骨一本も残してやらないぞ。俺は君を同意させ、嬉しがらせてやる。

マーガレット ええ、私を殺す気じゃないでしょうねえ？ あんたたちときたら、ごろつきペアだわ。私のポケットを掏ったとしか思えない。

ソーニイ ポケットを掏るより、すぐにあんたの舌ば引っこ抜いてやりたいところばい。

ペトルーキオ おい、無駄なおしゃべりはよせ。[マーガレットに向かって] 俺はお前と結婚

する。さもなくば、誰もお前と結婚する者はいないぞ。万一、お前と結婚しようなどと言う者がいたら、俺がそいつの喉笛をかつ切ってやる。一緒にいるお前の喉をもかつ切るかもしれんぞ。ベグ、俺は君を飼い馴らすために生まれた男だ。

ボーフォイ、ウッドオール、トラーニオ登場

君の親父さんだ。嫌と言っではいかんぞ。そうすれば、後はどうなるか、知っての通りだ。
マーガレット [傍白] この男には悪魔が潜んでいるんじゃないかしら。私自身の武器で、打ちのめされてしまう。もし私を飼い馴らせるようなら、この男と結婚してもいいっていう気分だわ。

ボーフォイ さて、ペトルーキオさん、娘との話はどうでした？

ペトルーキオ うまくいかないでどうします？ 私がやり損なうなんてことはあり得ないことです。この最高にありのまま気性のお嬢さんは――

ボーフォイ おお、どうした娘、そんなふうにふさぎ込んで？

マーガレット この気の狂ったガミガミ男と私を結婚させるなんて、ホント、何とお父様らしい配慮をお見せでしょう。

ペトルーキオ 親父さん、これまでお嬢さんは最も不当に評価されてこられた。彼女のじゃじゃ馬ぶりは世を欺くため。ならば、悪口を言われる筋合いはないのです。忍耐に関しては、第二のグリセルダだと言ってよい。お父様との間で合意がなされましたので、婚礼は次の木曜日といたします。

ソーニイ そんなじゃ、火曜日にソーンディはスコットランドに行くばい。

ウッドオール おい、ペトルーキオ、お嬢さんは先ずお前さんが縛り首になるところを見たいとおっしゃってるぞ。こりゃ、君の勇み足か？ 掛け金を払い戻してもらおうぞ。

ペトルーキオ へん、そりゃ、彼女の流儀にすぎん。俺は彼女に求婚し、勝利を収め、俺のものにしたのだ。俺たちは取り決めたのさ。人前じゃ、彼女はあくまでもじゃじゃ馬気質で通すということに。というのも、余りに急にじゃじゃ馬ぶりから足を洗うように見えてはならんからな。二人っきりの時は、俺たちは互いに対し、この上なく親切で、この上なく愛情があり、この上なく思いやりのある恋人たちというわけさ！ 親父さん、ご馳走を用意し、客人を招待してください。私は家に帰って、いくつかが片付けねば。それに、彼女の持参金に関わる書き物を持って来なければ。では、失礼します、紳士の方々。君の手をくれ、ベグ。

ボーフォイ 何と言ったらいいか！ だが、とにかく、わしの手を。君を祝福しようではないか。ペトルーキオ、これで婚約成立だ。

ウッドオール }
トラーニオ } アーメン、ここにいる我々皆が証人だ。

マーガレット 何だって、あんた、私の好みも聞かずに私と縁組するつもり？

ペトルーキオ えい、黙れ、ベグ、黙れ！ 皆の前ですねるな。俺らの契約とは全く関係のない方々の前じゃないか。さあ来い、ベグ。馬を取りに行くからな。失礼します、親父さん。

マーガレット 絶対、行かない！

ペトルーキオ この明かりに誓って、行くんだ！ 怒った態度は止めて、さあ、行け！

[兩人退場]

ソーニイ おや、奥様、あっしが副官になって、あんたの尻ば押してやりまっしょう。

[退場]

ウッドオール かつてこうも急にまとまった縁組があっただろうか。

ボーフォイ 実に、紳士の方々、わしは狂ったように、いちかばちかの取り引きをしておる。

ウッドオール ところで、旦那様、妹娘の方ですが、私の以前からの愛と奉仕を思い出してください。

トラーニオ 私の方に（傲慢でなく、旦那様、）より利点があると、一目置いてお考えいただければ幸いです。

ボーフォイ お二人とも、お静かに。紳士の方々よ、この争いはわしに任せていただこう。妹娘を勝ち取られるのは、口先ではなく、行為でその愛を示した方といたします。わしはお二人のどちらにも好意を寄せておりますが、より多くの寡婦給与と与えると約束してくださる方に娘を差し上げましょう。どうでしょう？

ウッドオール 私の地所の額といたしましょう。明らかに、2000ポンドはある。加えて、船荷に投機している分と、全財産を、私が死んだら彼女に差し上げましょう。

トラーニオ それで全部ですか、旦那。ああ、余りにも少なすぎますよ、旦那。私は父のただ一人の跡取り息子です。その地所から毎年3000ポンドの上がりがあります。これは娘さんの持参金に見合う寡婦給与でしょう。負債、抵当、それに、支払うべき持参金は一切ございません。どうです、ご確認いただけましたか、旦那様？

ボーフォイ あなたの申し出が最高だ。では、その条件をあなたのお父様が認めてくれれば、娘を差し上げよう。でないと、失礼だが、もしあなたがお父様より先に死んでしまったら、彼女の寡婦相続分はどうなる？

トラーニオ 余計なご心配だ。父は年を取っており、私は若い。

ウッドオール それで、若者は年寄りほどに死ぬことはないと言うのか？ お前さん、またつねってやろうか？

ボーフォイ では、紳士の方々、こう決めましたぞ。木曜日に私の娘ベグが結婚します。その次の木曜日に、ビアンカはあなたのものに。ただし、あなたのお父上の承認を得た上で。でなければ、ウッドオール氏が娘を手にとることといたします。それでは、私は失礼します。お二人とも、有難う。

[退場]

ウッドオール 旦那様、仰せの通りに。さあ、お前なんか恐れはしないぞ。ああ、若者よ、お前の親父さんも、全財産を与えてお前の居候となり老後を過ごすほどの馬鹿じゃなかろう。お嬢様の所へ行行って口笛でも吹くがいいさ。は、は、は。

[退場]

トラーニオ 今にその皺だらけの面の皮をひんむいてやる。だが、ああ言ったのは我が旦那様のためと思ってのこと。息子ウィンラブに扮したこの俺が、どういう経緯で、父親サー・ライオネル・ウィンラブの役を演じてくれるお方を見つけねばならぬ羽目になっちまったんだろう。それに、普通は父親が息子をこしらえるってのに、本件は順番変更じゃないといけないうなんて不思議だね。

恋はこんな不可解なことを町に連れて来て、
あらゆる物事を上下さかさまにひっくり返してしまうのが関の山。 [退場]

第三幕第一場

ウィンラブ、ジェラルド、ビアンカ登場。ベルベットをかぶせたテーブル、椅子2脚、
ギター、曲が書かれた楽譜がある。

ジェラルド お願いだから、お嬢さん、ギターの授業に集中してください。

ウィンラブ これがムッシュ・アポロの、ドゥ、谷における、非常に美しい話です。それに、マダモゼアル・ダフネも。私、読んであげましょう、あなたに、それを、マダーム。

ジェラルド お嬢さん、ムッシュ・短^{ショートホース}馬のことはお気になさらないで。こちらの授業を先に。

ウィンラブ ムッシュ・バイオリン^{フイードラレー}弾きめ、断じて、あなた、ドゥ、とっても、すこぶる、厄介な男だ。ドゥ、ギターで、私、ドゥ、大きな穴を、あなたの頭に、こしらえてやる。マーガレットがやったのと同じように。

ジェラルド ここは口論をする場所じゃない。そうじゃなくて、思い出してくれ。

ビアンカ およしになって、紳士の方々、私が素直な気持ちで選ぶことに争って邪魔だてするなんて、二重に私を侮辱なさっていますわ。この口論を終わらせるため、お掛けになって、あなたの楽器の音合わせをなさってください。調子が合うまでに、この方の講義も終わるでしょう。

ジェラルド 調子があったら、こいつの講義から離れてくれますか？

ビアンカ 離れますとも。だから、満足ください。さあ、ムッシュ、あなたの頌歌^{オード}を見せて。

ウィンラブ 実に怪しい奴だ。きっと、こいつはリュートの教師じゃないぞ。

ビアンカ ここです。さあ、読みますわ。 (読む)

「僕がフランス人であると信じないでください。僕の名前はウィンラブ。町で僕の名前を使っているのは家来のトラーニオ。僕は君の熱狂的^{しもべ}な僕、君の微笑みで生きる者。だから、優しくして、僕の希望に命をお与えください。」

ジェラルド お嬢さん、ギターの音が合いましたよ。

ビアンカ 聞いてみましょう。まあ、ひどい、弦が裂けているわ。

ウィンラブ 全体的に²²⁾、ドゥ、唾を吐いたらどうだ。やり直すんだな。

ビアンカ さあ、見せてください。私にはどのようにあなたを信じたらいいか分からないわ。でも、もしこれが本当なら、高貴なウィンラブさんは愛するに足りる。こうしている間、あなたご自身と協議なさってください。そうすれば、あなたの希望が揺るぎないものにならないってことはないかもしれないわ。

ジェラルド お嬢さん、今や完璧に合いましたよ。

²²⁾ ここは “in the hole” (穴) とすべきところを, “in the whole” (全体的に) と言い損なっている。

ウィンラブ おや、おや、断じて、全く合ってません。

ビアンカ さて、あなた、お付き合いしますわよ。

ジェラルド ムッシュ、お願いだから、しばらく散歩をしてきてくれ。僕の音楽の授業は三重奏にはなっていないでね。

ウィンラブ ムッシュ・バイオリン^{フイードラ}弾きよ、私は、全然、邪魔しない、あなたを。その自信はある。(傍白) こいつは俺同様、ビアンカに求婚するために自身を偽っている者に違いない。ちゃんと目を光らせておこう。

ジェラルド お嬢さん、初めに、前回お教えした最後の唄を歌って楽しみましょう。その後に、先へ進みましょう。

ビアンカ やってみますけど、音を外してしまうかもしれないわ。

(唄)

ジェラルド お嬢さん、先へ進む前に、あなたの指使いのために、この紙に幾つか規則を書いておきます。ざっと目を通しておけば役に立つでしょう。

ビアンカ 見せてちょうだい。(読む)

「僕はリュートの先生のように見えるけれど、ねえ、僕の美しいビアンカ、君に近づくためにこのような変装をしてるだけなんだ。僕は君の慎ましい僕^{しもべ}であり、情熱的な崇拜者、ジェラルド。」あら、あなたの規則はお返ししますわ。そんなの、気に入らない。私は古風な流儀の方が好きなの。こんな馬鹿げた新方式と古い規則を取り替えるなんて、嫌いだよ。

召使い登場

召使い お嬢様、花嫁に衣装を着せる手伝いをせよと、お父様がお呼びです。

ビアンカ では、先生、さようなら。私は行かなければなりません。

[ビアンカと召使い退場]

ジェラルド 彼女についてどう考えればよいのか分からない。この男は、まるで恋に落ちているように見えるし、彼女は奴といちゃついていた。あの忌々しいフランス人どもは町の商売をことごとく手中に収めている。もし連中が美女をことごとく乗りこなせば、イングランドの男どもは、愛人を求めてウェールズまで行進せにゃならん。だが、ビアンカよ、もしもその彷徨う目をそんなつまらぬ者に投げかけて、君の考えがとても卑しいものになったのなら、後家さんに乗りかえてせつせと精を出すことにしよう。

[退場]

ウィンラブ 奴がいなくなって有難い。これでまた、俺の母国語を話せる。ビアンカは僕に希望をくれた。思い切って信じてみよう。彼女は僕を愛していると。

ボーフォイ、ウッドオール、トラーニオ、マーガレット、ビアンカ、お付きの者たち
登場

だが、彼女のお父さんがいらした。

ボーフォイ わしのことを信じてくれ、紳士の方々、とても妙だ！今日はペトルーキオが約束した日だが、婿殿はまだやって来ぬ。もっと紳士らしい方だと見たのだが、わしの家族にこのような恥をかかせるとは。

マーガレット ええ、あなた様ときたら父親らしく私を立派に扱ってくださいましたこと！私の意志に反して、力づくで私の手を野蛮な気違い男に与えたりなどして。急いで求婚するけど、結婚はのんびりという男よ。お父様に従ったら、このざま。あなたが千倍お父様らしかったとしても、二度と従うものですか。それで縛り首になったっていい。

トラーニオ お嬢さん、辛抱なさい。私の命に誓って、きっと来ますよ。あの人は無骨で陽気だけれど、高貴なところもあります。さあ、お嬢様、結婚式の衣装を着て来ましょうよ。あなたが衣装を身につけるまでに、きっとあの人はあなたの側にやって来ると思います。

マーガレット 結婚式の衣装を。私が縛り首にする前に、あの人が縛り首になっていればいいのに。少なくとも、両目をくり抜かれていればいい！ [泣きながら退場]

ボーフォイ 可愛そうな娘だ。今、お前が泣くのも責められぬ。こんなひどい目に遭わされれば、聖者でも腹を立てることだろう。わしは年寄りだが、これに対するはっきりとした説明をさせるべく、彼を呼び寄せられる者を探そう。

ジェイミー登場

ジェイミー ああ、旦那様、ニュースです！ ニュースです！ これまで聞いたことのないような仰天ニュースです。

ボーフォイ おお、どんなニュースを運んできた？

ジェイミー ペトルーキオさんがやってくると聞けば、ニュースでないとは言えませんよね？

ボーフォイ えっ、来たのか？

ジェイミー いえ、とんでもございません、旦那様。

ボーフォイ じゃあ、どうなんだ？

ジェイミー こちらに向かっているところです、旦那様。

ボーフォイ いつここに来る？

ジェイミー あの方が今私のいる場所に立ち、あなたと顔をあわせる時です。

ボーフォイ 馬鹿者め！で、それでニュースは終わりか？

ジェイミー ええ、ペトルーキオさんがお見えになりますが、新しい帽子に、古い袖なしの短い胴着で、三度も裏返した古ズホン、ちびた蠟燭入れにしか使えなくなっていた古ブーツ、柄が壊れ鞘がどこにいったか分からない錆びついた古い剣といういでたちで、年をとって痩せ、びっこをひき、飛節内腫と鼻疽にかかって、息切れをしている馬に乗っておられます。その鞆は女物のベルベットで、あちこちが荷縄でつないであります。

ボーフォイ 連れはあるのか？

ジェイミー ああ、旦那様、召使いのソーニイがいますが、実にその主人にふさわしい供まわりです。私が風車に見えないのと同様、キリスト教徒の従者には到底見えません。

ウッドオール こいつは実に妙なむちゃぶりのユーモアだ！

ボーフォイ あの男がやって来た。それは嬉しいが、何という姿だ！

ペトルーキオとソーニイ、奇妙な服装で登場。

ペトルーキオ おい、紳士諸君はどこだ？ 誰か家にいないのか？

ボーフォイ よく来てくださった。ついにお見えになって、嬉しい。

トラーニオ もっといい服で来てくださるものと思っていました。

ペトルーキオ いや、いや、これが俺の結婚衣裳なのです。おや、紳士の方々、どうかなさいましたか？ 何をじろじろ見ておられるのですか？ 私が怪物とでも？

ウッドオール 実際、^{いち}市でも通用しそうなくらい妙な服装だ！

ペトルーキオ ああ、面白いことをおっしゃる。仕立て屋が言うには、最新の^{ファッション}流行だとか。それにしても、俺のペグはどこだ？ もうだいぶ待たされたぞ。朝になってから随分経つ。今頃は教会にいなきゃならん時刻だ。

トラーニオ でも、そのような姿で花嫁と会うおつもりじゃ？

ペトルーキオ いかにも、このなりでです。

ソーニイ それに、ソーンディもです、旦那。

ボーフォイ でも、まさかそのなりで式に臨まれるおつもりじゃなからうな？

ソーニイ 私もご主人様と心一つ。

ペトルーキオ 彼女が結婚するのは、この私とであって、私の服とではない。父上、紳士の方々、あなた方も一緒について来られるか？ ただちに教会に参ろう。一刻もぐずぐずしちゃうおれん。

ソーニイ ほらここに、旦那様。スコットランド長老派の祈祷書に従って、結婚なさいまし。

それで、あの女のことがお気に召さないようでしたら、捨てればよろしい。さあ、いかがです？

[ペトルーキオとソーニイ退場]

トラーニオ あの気違いじみた格好には何か意図があるのでしょうか、教会に行く前に服を着替えるよう説得しなければなりませんよ。

ボーフォイ 後を追って、どうなるか見てきましょう。

[退場]

トラーニオ さて、旦那、外に手はありませんよ。使いを送ってあなたのお父様にここに来ていただくには、余りにも猶予がございません。結婚相手をかすめ取ってしまいなさい。あの年寄りの愚か者たちのほか、あなたのなすことを侵害だと言って大いに憤慨する者など誰がいるでしょうか。

ウィンラブ はて、そんなふうに盗まれりゃ、こりゃ騙しだから、すぐにばれちまうだろうな。

トラーニオ それだけです。利益のあることですから、もっと楽しみましょう。その上、ことがばれる前に、あなたのお父様がお喜びになるかもしれない。私のお約束に従ってください。彼女はどこから見てもあなた様にふさわしい方です。この計略を用いるに足る十分な金持ちであるばかりか、あなた様のことを十分に愛しておいでだ。

ウィンラブ では、そうすべきとあらば、計画を見事に練り上げよう。

トラーニオ 私に任せてください。ジェイミーにやらせます。誰か偽の誓いをしてくれる者を

探させ、その者に、ここで老サー・ライオネル・ウィンラブになってもらい、私が提示する以上の寡婦給与を保証していただきましょう。旦那様、全く心配なさらないでください。少しも疑われず事が運ぶように、ジェイミーにきちんと指示しておきますから。

ウィンラブ ああ、でも、お前も知ってるように、老ボーフォイは俺の親父をよくご存知なのだぞ。

トラーニオ 全く問題ありません。最後に会ってから随分と長い歳月が経っていますから、顔で区別がつくことは決してないでしょう。

ウィンラブ では、決まりだ。でも、俺と同じ教師の、あの忌々しいリュートの先生がこれほど俺たちにつきまとして監視しているのでなければ、間違いなくこっそり式を挙げてしまうのだが。いったん結婚式を挙げてしまえば、世間がことごとく反対しようと、俺のものと主張できる。

トラーニオ それについても考えておきましょう。あのリュート教師は大いに胡散臭い。

ウィンラブ 俺も考えておこう。

トラーニオ あの連中から紳士を見つけられないまま、かなり長いこと経ちまった。だが、このままにしておこう。男を一人見つけて来るよう、ジェイミーを既に送り出したからな。

ウッドオール登場

俺たちの状況に見合うように。おや、ウッドオールさんだ。奴も他の者と同じように騙されちまえ。(ウッドオールに向かって)旦那、神のご加護がありますように。教会からお帰りですか？

ウッドオール そう、学校から帰る時のように喜び勇んで。

トラーニオ では、新婦と新郎は式を済ませ、帰宅中ですか？

ウッドオール 新郎だと？ いや、奴は新郎じゃなくて悪魔だ。そう、悪魔、まさに悪鬼だ。

トラーニオ おや、おや、彼女の方が悪魔でしょう。常軌を逸した悪魔だ。いや、悪魔のおふくろだ。

ウッドオール いや、あの男に比べれば、あの女は子羊だ、鳩だ、子どもだ。神父があの男にマーガレットを妻とするや、と尋ねた時、あの男は「ああ、神様の傷口にかけて、そうするぜ！」と言いやがった。あまりに大声で誓ったもんだから、皆びっくりして、神父は聖書を落っことしちまった。寺男が拾い上げようとして屈んだところ、あの脳みそ狂いの新郎がいきなり平手で殴ったもんだから、寺男も聖書も全部また落っこちた。あの男は言った。「さあ、拾え。拾いたい奴がいるならば」と。

トラーニオ 可愛そうな花嫁はそれに対し何と言いました？

ウッドオール ポプラの葉っぱのようにブルブル、ガタガタと震えていたね。その後、神父が新郎新婦の手と手を取り合わせさせていたちょうどその時、あのごろつきスコットランド人に向かってあの男はマス^ムスカ^スット^カワイン^デをグラス1杯要求し、妻の健康のためと言って飲んだ乾杯の盃を、寺男の顔目がけて投げつけた。その男の髭が薄くなっていて、腹ペコそうだった、との理由で。それから、花嫁の首の周りに腕を回すと、教会中にこだまするような音を立て

てキスをしやがった。そんな光景を見て、恥ずかしくなって走って逃げて来たというわけだ。今頃には奴らもここへ向かっている。だが、ほら聞け、楽隊がやってくる。(音楽)

ペトルーキオ、マーガレット、ビアンカ、ジェラルド、ソーニイ、その他の者たち登場

ペトルーキオ 紳士ならびに友人諸君、あなた方の骨折りに感謝いたします。あなた方は今日私と食事をなさるおつもりだろう、そして、結婚式の歓声を上げる心積もりを大いになさっておられるだろう。しかし、私には大仕事があるゆえ、これにて失礼いたします。

ボーフォイ せめて今夜発つというわけにはいかぬのか？

ペトルーキオ すぐに発たねばならんです。どのような用件かご存じなら、不思議に思われることもないでしょうな。では、正直な紳士の方々、私がこの最も忍耐強く、可愛くて、徳の高い妻に身をゆだねる様子を見てくださった皆様全員に感謝します。ここで父と食事をして、私の健康を祈って乾杯してください。というのも、ここで私は失礼をしなければ。それでは、皆様方、さようなら。

ソーニイ ちえっ、旦那様、結婚式のディナーを全く口にしないおつもりなのですか？

トラーニオ お願いです、せめてディナーがすむまでいてください。

ペトルーキオ 駄目だ！

マーガレット 私からもお願いします。

ペトルーキオ そりゃ大いに効果がある。満足したわい。

マーガレット では、いてくださるの？

ペトルーキオ お前がお願いするのに満足したと言ったまでのこと。だが、いくらお願いされてもここにいるわけにはいかん。

マーガレット じゃあ、私を愛しているならここにいて。

ペトルーキオ 出来ぬ！ソーニイ、馬を。

ソーニイ 奴らはまだ結婚式のディナーを全く口にしちゃおりません。

ペトルーキオ 馬鹿者め、馬の用意だ！

マーガレット じゃあいいわ、勝手になさい、今日、私は行きませんから。いいえ、明日も明後日も、私が満足するまでは。あなた、ドアは開いてますわ。お帰りはあちらよ。その靴が古びないうちに、さっさとお出かけなさい。

ペトルーキオ ああ、ベグ、いいじゃないか。そう怒るなよ。

マーガレット 怒りますとも。何をなさるおつもり？お父様は黙っていて頂戴。この人は私の気が向くまで待たせておけばいいのよ。

ウッドオール おやっ、旦那、また始まりましたな。

マーガレット 紳士の方々、披露宴の席へとお進みください。私には分かっているのです。反抗精神に欠けていると、女は馬鹿にされるということが。

ペトルーキオ 皆行くさ、ベグ、お前の命令で。花嫁に従うのだ、彼女に付き従う方々。宴席に行って、飲み騒ぎ、踊るがいい。狂おうが、浮かれようが、首をくくろうが構わぬ。だが、俺の可愛いベグは、俺と一緒に行かにゃならん。いや、これを聞いて驚きなさるな。地団太

踏んでも、睨^{にら}んでも、カッカしても駄目だ。さあ、さあ、そっと、そう、そう、それでこそ、俺の利口なペグだ。俺のものは俺のものだ。この女は、俺固有の所有物であり、俺の家財道具であり、俺の家であり、俺の牛であり、俺の口バであり、俺のあらゆるものだ。見ろ、立ち上がったぞ。その勇気がある者は、この女に触れてみやがれ。俺の行く手を遮る奴は痛い目に遭わせてやるぞ。ソーニイ、お前の短剣を抜け。俺たちは山賊どもに囲まれた。男なら、お前の女主人^{ミストレス}を救い出すのだ。怖がるな、可愛い娘よ、百万人の敵が相手でもお前に指一本触れさせるものか。いや、来い！

マーガレット どなたも私を助けてくださらないの？

ソーニイ 畜生、ディナーが食べれていいなあ。どなたかソーニイ^{きんちやく}の巾着にちょっとばかり羊の肉とポリッジを入れるよう、料理人に言ってくださいよ。

[ペトルーキオ、マーガレット、ソーニイ退場]

ボーフォイ いや、行かせてやりましょう。あのおとなしい二人を。

トラーニオ こんな気の狂った連れ合いは、これまで見たことがない。

ボーフォイ さあ、紳士の方々、お入りください。花嫁と花婿が不足しておりますが、ディナーをどうぞ。ビアンカ、お前は姉に代わってその席に。ウィンラブさん、あなたは花婿の練習をなさいませ。 [一同退場]

ウッドオール 旦那^{ムッシュ}、私のお嬢さんの心は誰に傾いていると思いますか？

ウィンラブ 私、言えない、それ、まだ。でも、そのうち、あんたに知らせるよ。

ウッドオール お願いだ、彼女にぴったり付いてくれ。これはお礼だ。 [ウッドオール退場]

ウィンラブ 私、有難う、旦那。はっ、はっ、は、このことをビアンカに話しに行かなくっちゃ。 [ウィンラブ退場]

トラーニオ 聞いてください、旦那。どうか、教えてください。どのようにお考えで？ ビアンカお嬢様は私以外の誰かのことを気に入っているのでしょうか。あの女はしっかり私の手を握って請合ってくれた。お願いします、調べてみてください。きっと恩にきますから。

ジェラルド 本当に、旦那、他の女たちと同じだと思いますがね。

トラーニオ えっ、何だって？

ジェラルド なーに、飽きっぽくて馬鹿なんでさ。

トラーニオ 彼女についてもそう思うのはどうしてだい？ いつも慎み深いっていうのに。

ジェラルド しらふな男は誰もそう考えませんよ。いいですか、旦那、あの女はあなたばかりか、好きになる価値のある男だって、誰も好きじゃありませんよ。あのひどいフランス語を教えていて、それよりひどい英語をしゃべる、ムッシュおしゃべりと恋に落ちているんですから。

トラーニオ あいつか！ でも、何故？ 信じられん。

ジェラルド でも、本当なんですよ。

トラーニオ まあ、奴が老ウッドオールの雇われ道具であり、あの老人のために求婚したことは知っているが。

ジェラルド そうだとしても、彼のために一言、奴自身のために二言発するという具合ですよ。

ウィンラブがピアンカを従えて登場

ご覧なさい。二人がここへ、手に手をとってやってきます。近くに行つて様子をうかがいましょう。ご自身の目で見りゃ、確信できます。

ウィンラブ お嬢さん、私の好意を疑う必要はありません。あなたの美しい両目にかけて（冒すことのできない誓いだ）、あなたは私をとことん征服した。私はあなたの捕虜として死ぬばかりなのです。

トラーニオ 何と言っている？ 何と？

ジェラルド 私にも聞こえません。耳を澄ませましょう。

ピアンカ あなたを信じないといけませんわ。あなたの言葉、他の人に影響を及ぼすあなたの行動と人となりには、何か不思議な力が宿っている。はかない抵抗に、あまりに強すぎる力だわ。あなたは私に勝った。でも、その勝利を自慢しないでね。

トラーニオ いや、では、そういう訳か。我慢ならん！ お嬢さん、私の邪魔だてをお許しください。あなたは私に親切に接し、良い望みを抱かせて馬鹿にしたんだ。そこにいるあなたの先生が素晴らしい恋の授業を授けていた。

ピアンカ あなた様、おっしゃることが分からないわ。

ジェラルド そうさ、分かんだらうね。

ウィンラブ ムッシュ・パイオリン^{フイードラー}弾き、何が、ドウ、問題なのですか？

ジェラルド ムッシュ・的^{ノーポイント}外れ²³⁾よ、実は俺はパイオリン弾きでも、リュート弾きでもない。このように変装までしたのも、私のような紳士を捨ててあのような下郎といちゃつく我が馬鹿娘のためだったとは、我ながら情けない話だ。よく覚えとけ！ 俺は紳士^{ジェントルマン}で、名前はジェラルドだ。

ピアンカ ああ、あなた様、ずっと私の先生ではいらっしゃらなかったということを、私はちっとも知らなかったという訳？

ジェラルド いや、愛^{いと}しいお嬢さん、知っておられたぞ。あんたには少しペグっぼいところがおありだ。だが、あんたには我慢がならん、ウィンラブさん。どうか教えてくれ。今じゃ、この女^{ジェントルウーマン}子を憎んでおられるか？

トラーニオ 憎んでいるとまでは言えないが、今日分かったことで、嫌いになったのは確かだ。この女が俺に求婚したとしても、誓って、嫁にもらう気は無いよ。

ジェラルド 天に誓って、俺もだ。誓ったからには、守るからな。

ピアンカ それでは、紳士の方々、あなた方お二人とも私に柳の花輪²⁴⁾を渡さずにいてくれたら有難いわ。

ジェラルド おい、おい。 あんたは嫌な女だ。俺にはある未亡人がいて、俺があんたのこと

²³⁾ 原文では“*No point*”となっており、他に、価値なし、無得点、という意味が込められているものと考えられる。

²⁴⁾ 報われない愛の象徴。

を愛している間ずっと俺のことを愛してくれた。愛^{いと}しいご婦人^{レディ}よ、俺は愛人で身を減^へぼしはしない。彼女にどこかあんたの姉み^姉みたいな氣質、ちょっと我儘なところがあるってことは確かだが、じゃじゃ馬学校で3日も訓練を受ければ、イングランド中のどの女性とも張り合えるほど立派になるだろうよ。

ビアンカ　じゃじゃ馬学校ですって？　一体全体どこにあるの。

ジェラルド　なーに、あんたの兄貴ペトルーキオの家だよ。あんたも、全て問題がなくなるまで、そこへ通わないといけないんじゃないかな？　俺はすぐに彼の所へ行くでしょう。悪女よ、さらばだ。[退場]

ビアンカ　はっ、はっ、は、素晴らしい出来ばえね。

トラーニオ　お嬢様、すみません、あなたに厚かましく接したのも、主人のためを思っただけのことでした。

ウィンラブ　信じていいぞ、トラーニオ、実際、役立ってくれた！　お前に礼を言わねば。

ジェイミー登場

おや、お前、急いでどこへ行く？

ジェイミー　あっ、ご主人様、見つけました。

ウィンラブ　何だって？　誰を見付けたというのだ？

ジェイミー　修道士教会に身を隠す類まれなる老罪人ほど、例の役柄にぴったり合う者はいません。

ビアンカ　例の役柄って、何なの？　何をしようというの？

ウィンラブ　前に言ったことだよ、僕の美しい君。で、彼はどこに？

ジェイミー　あそこです、あそこ。ほら、中庭を歩いている。[退場]

ウィンラブ　怖がらないで、お譲さん。中に入れろ、トラーニオ。お前が彼に指示を与えるのだ。俺の姿は見られちゃいけない。

ジェイミーとスナッチペニー登場

トラーニオ　さて、友よ、お前さんは何者だい？

スナッチペニー　お望みの何でもござれです、旦那。

トラーニオ　何でもだと？　じゃあ、何ができる？

スナッチペニー　何でもござれです。毒づいたり、嘘をついたりすることから、あなた様のお役に立つために、正直者を元気者にすることまでいたします。私を雇えば、ご満足いただけること請け合いです。

トラーニオ　じゃあ、役立ちそうだな。でも、毒づくことはご免だよ。俺の用件では、ただ嘘をついて横柄に振舞うだけでいい。余計なことをしたら、お礼の値が下がるからな。

スナッチペニー　全く、旦那、毒づきと嘘つきが揃って値が決まるんだよ。どちらも入れとくか？　それとも、どちらも外しとくか？

トラーニオ でも、最も有利に働く時には、すごく巧妙に練り上げられた嘘をつけるんじゃないか？

スナッチペニー でなきゃ、すまなく思うね。俺はペテン稼業37年のベテランだ。旦那、心配するなって。

ジェイミー いや、こいつは大勢の中から選んだ男だからね。最も嘘をつきそうな顔をしてたんだ。

トラーニオ よし、俺について来い。やり方を教えてやる。だが、もし失敗したら、その両耳は無いと思え。

スナッチペニー 首やそれ以外の場所だって賭けてやりますよ、旦那。 [退場]

第三幕第二場

ペトルーキオの屋敷。ソーニイとカーティス、別々に登場

カーティス ソーニイか。よく戻った、お帰り。

ソーニイ ソーンディは腹ペコだ。少しばかり肉を持って来てくれないか？

カーティス よし、分かった、ソーニイ。

ソーニイ よーく火を起こしとけ。花嫁殿が溝に落っこちんしゃったけんね。ずぶぬれであらすとよ。服はビチョビチョたい。尻^{けつ}穴まで。

カーティス ご主人様と奥様は揃っておいでになるのかい、ソーニイ？

ソーニイ はて、おいでになるかって？ 二人とも凍えていなけりゃな。だが、おい、火はどこだ？

カーティス 今、火を起こしてる、起こしてるどころだよ。全てが整っている。なあ、教えてくれよ、ソーニイ、俺たちの奥様^{かた}はどんな女だ？

ソーニイ 悪魔を22匹想像できるかい？

カーティス ひえーっ、天よ、お守りください！

ソーニイ そう、彼女1人で悪魔22匹分に相当するな。お前はその悪魔一匹分にもなりゃしない。

カーティス 冷酷なガミガミ女と呼ばれているとか。

ソーニイ 誓って、俺は1000ポンド賭けたっていい。あの女がわめいたら、その毒づき声はエディンバラからロンドンまで達するだろうね。手綱を引っ張って止めることなんてできないさ。

カーティス じゃあ、俺たちはどうすりゃいいんだ？ 皆殺しにされる他ないぞ。

ソーニイ そう、生き残る奴はいないだろうね。畜生、あの悪魔は女の皮を脱いで、代わりに悪魔のおふくろさんの皮を着てるんだから。おい、フィリップ、ジョージ、グレゴリーはどこだ？

カーティス 皆準備はできているぜ。おーい、こっちへ来るんだ。フィリップ、ジョージ、ジョ

ゼフ、ニック、どこにいる？

4、5人の召使たち登場

フィリップ ソーニイ、よく戻った。

ソーニイ 少しばかり肉をくれ。そうすりゃ、お前さんを信じるぞ。

ジョージ ソーニイ、あんたに会えて嬉しいよ。

ソーニイ 飲み物をくれ。そうすりゃ、お前さんも信じるぞ。

ジョゼフ 何だ、ソーニイ、また町に来たのか？ よく戻ったな。

ソーニイ ちえっ、よく戻った、よく戻ったと言うだけか。肉と飲み物をくれ、それが歓迎ってmondらうが。

ニック 懐かしいな、ソーニイ、よく戻った。

ソーニイ どうだい、ワーリイは？

ニック 聞いてないのかい？ ワーリイ・ワットは死んだよ。

ソーニイ 畜生、二本足で歩く者は誰もワーリイ・ワットを殺せやしないのに。

ニック そう。奴は縛り首になったからね。

ソーニイ 二本足で歩く者は誰も彼を殺せなかったと思うよ。

ニック ソーニイ、お前さんは正しいよ。奴が縛り首になったのは、杖をついた三本足の男、タイバーン氏²⁵⁾のためだからね。

ソーニイ ちえっ、嘘つきめ！ 絞首刑は奴を殺して、その強い心臓を破裂させることができるって言うけど、それ自体が奴を吊るせる訳じゃねえもんな。絞首刑ってのは、イングランド人を吊るすためのなんだよ。

ニック ところで、ソーニイ、俺たちの奥様はどんなお方だい？

ソーニイ 悲嘆と苦悩に見舞われるってことがすぐに分かるだろうね。両耳がばらばらに切り落とされる恐怖を味わうことになるんだ。俺の魂にかけて、きっと明日までにそうなるから、決してお前さんに2ペンス渡したりしないよ。さて、どう思う？

ペトルーキオとマーガレット登場

ペトルーキオ ここにいやがる、怠け者のごろつきどもは？ 戸口まで出迎えて^{あふみ}鎧を押さえ、馬を引こうとする奴は誰もいないのか？ カルティス、フィリップ、ニック、グレゴリーはどこにいる？

召使一同 ここです、ここです！ ここにいます、旦那様！

ペトルーキオ ここです、ここです、ここにいますだと？ この、のろまの役立たずどもめ！

何だ、出迎えもせず、敬意も払わず、務めも果たさぬというのか？ 先にやったあの馬鹿野郎はどこだ。

²⁵⁾ 原文では“Mr. Tyburne”という綴りだが、明らかに、現在のロンドンのハイド・パーク北東入口の門付近にあった死刑執行場タイバーン（Tyburn）をふまえた発言である。

ソーニイ　ちえっ、旦那、私ゃすげえ腹ペコで、すげえ空腹です。あちこちついて回ったけん、旦那様の指をつかむ力さえなかですばい。

バトルーキオ　卑劣なごろつきめ、このろくでなしどもを連れて、公園の所まで出迎えに来说わなかったか？

ソーニイ　あれっ、旦那様、おっしゃいましたっけ？ でも、私ゃ、すげえ腹ペコで、全く記憶がないんです。旦那様、伝言はご自身で伝えてくださいませんか？

バトルーキオ　奴隷どもめ、下がって、夕食を持って来い！ ごろつきどもめ、俺の命令が聞こえないのか？ 飛んで行って、急いで準備したらどうだ？ [2, 3人の召使いたち退場]
お座り、ペグ、よく来た。まあ、お願いだから、いや、そうじゃない、愛しいペグ、陽気にしてくれ。奴らは田舎の馬鹿野郎どもなのさ。どうか、陽気にしてくれ。こらっ、靴^{ブーツ}を脱がせろ、ごろつきども、ろくでなしども！ いつまで待たせる？

(歌う)

ここに一人の修道士

行く先々で托鉢し

マーガレット　きっと、この人は息が切れるはず。そしたら私の番だわ。

バトルーキオ　馬鹿っ、ごろつきめ、靴^{ブーツ}を斜めに引っこ抜きやがったな！ これでも食らえ！
思い知ったなら、もう片方はちゃんと脱がせるんだぞ！ ペグ、陽気にしてくれ。おい、水だ！ おい、俺のスパニエルはどこだ？ 従弟のファーディナンドをすぐここへ呼んで来い。一つ、なあペグ、キスしてお近づきの挨拶をくれ。俺のスリッパはどこだ？ 水はどうした？
さあ、ペグ、手を洗え。心から歓迎するぞ。

ソーニイ　ちえっ、彼女の歓迎に見合う肉は、どこだ？

マーガレット　あなたと一緒に洗ったら、水がこぼれちゃうわ。

バトルーキオ　この悪党め、こぼさせるつもりか？

マーガレット　どうか、あなた、辛抱して。わざとやったんじゃないわ。

テーブルに布が掛けられる。召使いたちが肉を持って登場。

バトルーキオ　怠け者で、不注意で、間抜けな奴隷野郎め！ さあ、ペグ、お座り。腹が減っただろう。愛しいペグ、食前のお祈りをしてくれ。それとも、俺がしょうか？ それとも、各々自分たちでしょうか？ さあ、目を伏せて。何だこりゃ、羊^{マトン}の肉か？

ソーニイ　ええ、そうですよ、旦那様。

バトルーキオ　誰が運んだ？

カーティス　あっしです、旦那様。

バトルーキオ　ごろつきめ、これは羊^{マトン}の肉ではなく、犬の胸肉だ。何たるやくざどもだ！ それに、焼け焦げて炭になっているじゃないか。ごろつきの料理人^{コック}の野郎はどこだ？ よくもまあ、こんな腐った肉を食卓まで運んで来たな！ 俺を毒殺するつもりか、頭だけが大きい不注意者ども、無作法なガキどもめ！ おやっ、文句をつける気か？ 俺が直^{じか}に相手してやるぞ！

マーガレット　どうか、あなた、満足なさって。あの肉はいい肉だったわ。それに、私にとって

もお腹が空いてるの。私は食べないといけないし、食べるつもりだわ。

ペトルーキオ 断じて食べてはならん、ペグ。お前を愛してるから、食べさせないのだ。あんなに焦げた肉を食ったら、^{かんしゃく}癇癪持ちになっちまう。俺たちのどちらもがかりやすい病気だ。お前をこよなく愛しているからこそ、害になるものを何一つやりたくないんだ。今夜は断食をしよう。明日、その分の埋め合わせをするから。

マーガレット 一体、何がなさりたいの？ 私は食べたいのよ！ 飢え死にさせるためにここに連れて来たの？

ペトルーキオ 何だ、ごろつきどもめ、木偶の棒みたいに突っ立って、奥様が毒を食べるのを見てるんだな？ 奥様の目障りにならぬよう、すぐに片付けろ。

(召使いたち目がけて肉を投げつける。ソーニイがそれを拾う)

ソーニイ よし、ソーニイは食べてみるぞ。毒が入っちゃれば、効くやろうけどね。

ペトルーキオ よし、ペグ、今夜は一緒に断食するとしよう。おいで、花嫁の新床へ案内しよう。

マーガレット 何か食べなきゃ、私、病気になっちゃうわ。玉子1個だけでも。

ペトルーキオ 駄目だ、駄目だ、その話はするな。腹一杯にして寝るつもりか？

マーガレット パン^{ひとかけら}一欠片だけでも。

ペトルーキオ 明日だ、明日だ。来なさい、さあ。 [兩人退場]

ジョージ こんなのもこれまで見たことあるか？

カーティス 旦那はじゃじゃ馬^{もっ}を以てじゃじゃ馬を制する気だろうさ。

フィリップ いただきますは言ったか、ソーニイ？

ソーニイ あまりにも腹が減ってたもんで、お祈りを忘れてたよ。ああ、汝、我らの腹を満たし給え。我らの膀胱よ、我々皆を女郎買いから、それに、隠遁からも遠ざけ給え。

ニック 隠遁だって？ ソーニイ、その心は？

ソーニイ ちえっ、君、そりゃ魔法さ。しーっ、悪魔の名前でもって、俺の姿を消してくれ。

俺たち皆を女郎買いと秘密主義から遠ざけて、絞首台に続く危険な道から絞首台まで、俺たち皆を護ってくれ。さあ、一杯やりな。

フィリップ もう腹一杯か、ソーニイ？

ソーニイ パイプ同然だね。君は俺の口ん中に指を1本入れて、もう1本を俺の尻^{けつ}の穴ん中に入れりゃ、俺の夕食の食べ初めと食べ終わりを実感できるばい。

第三幕第三場

ペトルーキオ、ペグ、召使いたち、ソーニイ、寢室に登場

ペトルーキオ ごろつきども、どこだ？ 明かりを持って来い。さあ、ペグ、服をお脱ぎ。さあ、ベッドへ、ベッドへ。

さてと、ほら、ペグ、ここに俺が自分で詰めたパイプがある。座って、火をつけろ。

マーガレット 私を単なる雇われ馬みたいに扱う気？ 一体どうして、あんたの汚いタバコを吸わせるの？

ペトルーキオ いや、そう恥ずかしがるなって。お前、気に入ると思うぜ。さあ、行こう。若いお嬢さんはしばしば歯痛に悩まされる。それで、寢床の中でタバコをふかす。俺たちの間では、良い連中には見えないけどな。さあ、パイプを持て。さもないと、眠らせんし、肉もやらんぞ。聞こえているか？

マーガレット ええ、悲しいほどに。こんな風にいたぶられたくないわ。 (泣く)

ペトルーキオ いや、いや、どこでも好きな所に行くがいい。だが、寝る前に、タバコを吸わせてやる！ [兩人退場]

第四幕第一場

ペトルーキオとソーニイ登場

ペトルーキオ おい、奥様にお仕えしろ。好きなことを何でも言っ、怒らせるがいい。だが、触れてはならん。それに、肉を食べさせてもならん。命令だぞ。

ソーニイ ちえっ、旦那あ、あん女子をスコットランドのハイランズに送りゃあよかですよ。飢えと寒さにゃあことかきまっせんばい。あそこじゃ、あん女子もすぐに腹ぺこになるでっしょうよ。

ペトルーキオ おい、いいから、俺の指示通りにやれ。 [退場]

ソーニイ 旦那様、必ずご命令通りにいたします。ですが、旦那様、身を護るために兜を持って行くことをお許してください。

マーガレット登場

マーガレット こらっ、グレゴリー、フィリップ！ 誰も近くにいないの？ ソーニイはどこ？

ソーニイ 奥様、一生懸命、尻をば追うちよります。

マーガレット ご主人様はどこ？

ソーニイ 市場にお出かけになりました。あんたの腹をこっぴどく叩くための鞭、立派な牛のいちもつ一物を持って帰んしゃーでしようね。

マーガレット そのうち私は餓死してしまう。これほど酷い扱いを受けた女がかつていたかしら？ 肉に飢えて、睡眠不足でめまいがする。その上、何より悔しいのは、あの人が私への気づかいと愛情からそうするのだと偽ることよ。ねえ、ソーニイ、お肉を少しちょうだい。

ソーニイ 油を塗って仕上げをした古い深靴^{ブーツ}を与えたら、絶対、ソーニイは縛り首になるばい。そいつをソーニイが細切りにして、あんたの腹を満たしちゃうかねえ。

マーガレット ソーニイ、ほら、お金だよ。弱くなっていく私の心を持ちこたえさせてくれる

ものを何でも少しでいいからちょうだい。

ソーニイ えっ、牛肉を一切れお食べになります？

マーガレット 食べるわ、ソーニイ。

ソーニイ 芥^{マスタード}子をつけて食べますか？

マーガレット 食べるわ、ソーニイ、早く。

ソーニイ 芥^{マスタード}子^{マスタード}はあんたの舌にいちちょん良くなか。味をきつうするけんね。そいが無かるうと、あんたは十分にガミガミやれるばい。

マーガレット じゃあ、芥^{マスタード}子^{マスタード}抜きの牛肉を。

ソーニイ 芥^{マスタード}子^{マスタード}抜きの牛肉なんか、よかあこと無かですよ。ソーンディが、何か食べ物と水を持って来まっしょう。それでスコッチ・プディングをこしらえたらよか。腹いっぱいになるまで食べんしゃい。

マーガレット 意地の悪いごろつきめ、これでも食らえ！（ソーニイを殴る）自分の召使いをこうも威張らせていいの？

ソーニイ 悪魔が汚いぼろきれであんたの顔を洗えばいい！

ジェラルド登場

ジェラルド おや、おや、どうしたことか、お前、奥様を殴るつもりなのか？ 卑怯なごろつきめ、女を殴るってのか？

ソーニイ 畜生、旦那、スコットランド人を卑怯者呼ばわりするか？ ここがスコットランドなら、そん腹に短剣をズブッと刺しちよるとこだぞ。あんたがギラルー²⁶⁾みたいに強けりゃよかあじゃが。

ジェラルド まあ、ギラルーってのはまったく、きさまみたいな卑怯者だ。

ソーニイ 畜生、ギラルーがいた場所を守りたくねえというんだな？ だが、奴は敵を前にちよいと恥じたような顔つきをしちよったぞ。

マーガレット ああ、ジェラルド、こんな扱いを受けた女はこれまでいなかったわ。私を父の所に連れて帰ってちょうだい。

ペトルーキオが肉の乗った皿を持って登場

ペトルーキオ ほら、ペグ、肉だよ。自ら肉をさばいたんだよ、おまえ。ジェラルド、よく来た。丁寧にも、ペグと俺を訪ねて来てくれたんだな。ペグ、ここに来て、座れ。素晴らしい子牛の肉だぞ。

マーガレット あら、若い雌鳥^{めんどり}の肉なのね。

ペトルーキオ なに、こりゃ子牛の肉だぞ、気でも狂ったのか？

マーガレット 私を気遣いみたいに言わないでちょうだい。これは若い雌鳥^{めんどり}の肉よ。

²⁶⁾ スコットランド産のニジマス属の一種。

ソーニイ その通りです、旦那様。

ペトルーキオ 俺は何と不幸な男なのだろう。哀れなペグは気が狂っている。こうなるのではないかと、いつも心配していたのだが。カーティス、その肉を持って行け。命じた通り、部屋を用意はできているか？ 明かりは点けているだろうな？

カーティス はい、旦那様。

マーガレット あら、私をどうする気？

ペトルーキオ 可愛そうなペグよ、気の毒だが、お前の病を治す手助けはちゃんとしてやるからな。お前は明かりから遠ざけなければならん。脳を悩ますのでな。

ジェラルド これは是非とも見ておかねば。彼は素晴らしい教師だ。

マーガレット あら、あなた、教えてちょうだい。私を間違いにするおつもり？ 実際、こうしていらっしゃるものね。こんなふうにひどくお扱いになるとは、私がどんなふうにあなを傷つけたと言うの？ 飢えさせるために私と結婚なさったとでもいうの？

ソーニイ 旦那様はあんたの腹をしばらくの間、減入らせるお積りだよ。と言うのも、我々はいつも「ガミガミ女にゃ腹一杯、レース前の雌馬にゃ何も食わせるな」って叫ぶじゃないか。

ペトルーキオ いや、いや。ペグ、俺が君をいつも気遣っているってことは知ってるだろう？ 君のガウンがちょうど届いたんだ、ペグ。今、君は腹が減っているから、見事に合うだろう。仕立て屋はどこだ？ ソーニイ、呼び入れてくれ。もしお前に合うようなら、身につけていざ。そして、俺たちはロンドンまで馬を飛ばして行って、君の親父さんに会おうとしよう。妹さんの結婚式が間近に迫っている。君は妹さんの手助けをしてやらないとね。

仕立て屋がガウンを持って登場

マーガレット もし妹が私と同じような夫と縁組みさせられるのであれば、天よ、彼女をお助けください！ でも、実家に帰れるなら、いくぶん慰みがあるわ。肉にありつけるし、寝ることもできる。

ペトルーキオ おい、仕立て屋、ガウンを見せろ。何だ、これは？ 何たること、こりゃチンドン屋の服か？ 何だ、これは？ 袖口か？ こりゃまるで大砲の口のようだ。おい、仕立て屋、きさまどういうつもりだ？ これがガウンだと？

仕立て屋 旦那様あ、ガウンですか？ ええ、どの仕立て屋にも負けぬ立派な出来の、ロンドンで一番の出来のガウンです。フランスから最近入ってきたばかりの最新の^{ファッション}流行のものですよ。

ペトルーキオ この嘘つき野郎！ マットギャラリーにある我が^{ひいばあ}曾祖母様の肖像画がちょうどそんなだぞ。

ソーニイ 旦那、そいつは、エディンバラ城のマーガレット女王の肖像画に似ちゃありませんか？

マーガレット 生まれてこのかた、こんな素敵なガウンを見たのは初めてだわ。優美で、型も申し分ない。気に入ったわ。これが欲しい。このガウンをいただくわ。でなきゃ、何もいない。あなたが何と言おうと、これが気に入ったわ。綺麗なガウンなこと。

ペトルーキオ そう、お前の言うとおりで、ペグ。醜くて、くだらんガウンだ。俺の考えと同じことを言ってくれて、嬉しいぞ。こりゃ、汚らしいガウンだ。

マーガレット そうじゃなくて、いいガウンだと言っているのよ。素敵な、流行^{はやり}のガウンだわ。ええ、あなたはお人形さんみたいに私を着飾らせたいのね。

ペトルーキオ そう、こやつはお前を人形扱いして馬鹿にしたいのだろう。

仕立て屋 奥様は旦那様が奥様をお人形のように着飾らせたいとおっしゃってるのです。

ペトルーキオ 生意気な口をききおって！ この、糸くず野郎、低脳、指貫野郎、蚤野郎め。俺の家に、シラミの卵が孵くようなものを持ち込んでおきながら、大威張りしやがって。さあ、とっとと持って帰れ。そんなもん、一つも要らん。

仕立て屋 旦那様、わたしは旦那の指示通りに仕立て上げたまでです。もう一度出直して来るなんて出来ません。

ソーニイ 持ち帰りやがれ。でなкゃ、こん畜生、俺のブドウ畑を持っていくがいい！

マーガレット 持ち帰らせないわよ。あなたにとって問題でも、私が気に入ってるんですからね。そこに置いてちょうだい。

ペトルーキオ おい、持って帰れと言っているだろうが！ 仕立て屋は他にもたくさんいる。ガキどもがはやし立ててからかう様な奇天烈な服を俺の妻に着せるわけにはいかんのだ。

マーガレット まあ、まあ、どれも、ふざけて言っているだけのこと。ガウンがどんなものか分かっていらっしやらないわけだから、好きなことをおっしゃればいい。これをもらうことに決めたわ。あなたがおっしゃるように醜いガウンだとしても、私は着るわよ。それであなたが腹を立てるだけのこと。

ソーニイ 旦那様、今や、悪魔がこの女の口に這い入りやしたぜ。その尻尾^{しっぽ}がちいっと垂れ下がっちゃうのが見えるかも。そいつが針なら、世間をチクリと刺そうと、隙をうかがっちゃうんでさあ、旦那。

ペトルーキオ なーに、そりゃ俺が買う物だ、ペグ。お前が気に入ってないのは分かった。もう何も言うな。頼むから、別のしろ。

マーガレット どんなつもりで私についてそうおっしゃるのは分からないけど、こう言わせてもらって構わないと思うわ。ええ、言わせていただきますとも。私は子供でも、赤ん坊でもないんだから。あなたより偉い人にも、私は言いたいことを言ってきた。もし聞きたくないのなら、耳栓でもすることね。私は胸が張り裂けるより、言いたいことを自由に言う方がいいわ。

ペトルーキオ 言え、ペグ、いいとも、言いたいことをしゃべればいいさ。おい、その安っぽい服を持って行け。ジェラルド、奴に駄賃を取らせると言ってくれ。[傍白] そして、品物を置いて行けと命じるんだ。おい、何て言っている、ペグ？

ジェラルド [傍白] 仕立て屋、そのガウンを隣の部屋に置いて行け。旦那のおっしゃることは全く気にするな。代金は俺が払ってやる。 [仕立て屋、退場]

マーガレット ええ、あのガウンが欲しいと言っているの。それに、好みの服も全部欲しい。こうして馬鹿にされるために、あなたに持参金を持って来たわけじゃないわ。

ペトルーキオ まさに、お前の言う通りだ、ペグ。さあ、馬の所へ行こう。もっと良い物が手

に入るまで、さしあたりこの服で間に合うだろう。おい、馬を敷地の端まで回しとけ。そこまでは歩いて行こう。待てよ、7時頃か。今から出れば、義理の親父さん家の夕食にゆっくり間に合うな。

マーガレット いえ、2時頃よ。夕食時までにはたどり着けないわ。

ペトルーキオ 俺が出発する頃には7時になるんだ。おい、何て因縁をふっかけやがる。俺の言うことや、なすことに、お前はいつも反対する！ 今日行くのはやめた。俺が行きたい時刻になるまで、出発はしないからな。

マーガレット いいえ、あなた、そんなことで私たちの旅行を止めさせたりしないわ。今は7時。あるいは2時、あるいは9時かも。あるいは何時でも、あなたのお好きな時刻ということに。ねえ、行きましょう。

ソーニイ お好きな時刻を。何時でも受け入れさっしやいますよ、旦那。

ペトルーキオ 実にいい。そうなのだ。支度を整えろ、すぐに。さあ、ジェラルド、皆で行くぞ。我が妹の結婚式の浮かれ騒ぎを盛り上げる手伝いをしに行こうじゃないか。

ジェラルド あなた様にお仕え申し上げます。

ペトルーキオ さあ、ペグ、自分の持ち物を整理しろ。

マーガレット 一度でも私がリンカーンズ・イン・フィールズを再び目にするなら、その時には、あなたに私を飼い馴らさせはしないわ！

[全員退場]

第四幕第二場

トラーニオとスナッチペニー登場

トラーニオ さて、おい、存分に横柄になって、年老いた騎士らしい物言いを続けるんだ。そうすりゃ、あんたは永遠にその役だ。

スナッチペニー 旦那、そのことなら骨の髄まで分かってます。ロード・ボーフォイと私はウスターで学友でした。私の地所はイヴシャムの谷にあつて、年3000ポンドの上がりがある。わしはこの結婚であんたに年1500ポンドをやると決める。さあ、一人にしてください。今からわしはサー・ライオネル本人だ。

トラーニオ よし、よし。たいした勇士ぶりだ。はて、何だろう？

ジェイミー登場

ジェイミー 年老いた罪人よ、準備はよろしいか。この上ない悪漢ぶりを発揮なされよ。そうすりゃ、あんたは最高の悪漢だ。ご主人が生食用リングを盗んでいる間、あんたは竜を眠らせておくんだ。

トラーニオ ところで、ジェイミー、何をしてきたんだ？

ジェイミー ロード・ボーフォイと一緒にだった。あんたと、あんたの親父さんの挨拶を伝えて、

年老いた騎士が喜び勇んで町に来るって言ったよ。あんたのビアンカへの愛を聞いて、余りに嬉しかったもんだから、あんたに関するあらゆる取り決めをしにやって来るってね。

トラーニオ そうか、それで彼は何と？

ジェイミー 知らせの札に、硬貨をくれた。俺は、サー・ライオネルがこの縁談に関して扱いたいのので直ちに同席を願っているって言った。急いでやって来るよ。彼は親戚になりたがっているから、スナッチペニー、もし君がそうしないと――

トラーニオ そんな時は、この俺を縛り首にしろ。

ジェイミー ふむ、見ろ。やつが来る。

ボーフォイとウィンラブ登場

ボーフォイ ウィンラブさん、あなたの召使いが、あなたのお父さまが喜んでこの町に到着なされたと言っておりますが、どこにおいででしょうか？

トラーニオ ここに。これが私の父です。あなた方がお互いのことを忘れてしまうほど、時間が随分経ちました。

スナッチペニー こちらがロード・ボーフォイであられるか？

トラーニオ そうです、お父さん。

スナッチペニー あなた様、謹んでご挨拶申し上げます。かつてこよなく愛していた方とついに会えてきて嬉しい。

ボーフォイ 高貴なサー・ライオネル、あなたとお会いできて嬉しい。

スナッチペニー ああ、幸せな日々をあなたと私は見てきたことか。つまり、古き良き時代は良く過ぎたということです。

ボーフォイ 左様、サー・ライオネル、あなたと私が最初に知り合った時。

スナッチペニー 左様、まったく、実際、最高の日々だった。人をかついだり、騙したりすることは全くなかった。世の中は変わりました。

ボーフォイ でも、私たちはそのような時代のことを覚えておいて、ずっと正直でいましょう。

スナッチペニー それが最高のやり方です。私の聞いたことが全て本当なら、私たちが正直な孫を持てるかもしれないという希望もありますので。倅が申すには、おたくのお嬢さんが倅を虜になさったと。

ボーフォイ 娘がご子息のためになってくれればいいのですが。いい娘ですよ。それに、私が申し上げるのも何ですが、器量もいい。そうでないなら、そのようにさせるようなものを娘にやりたいと思います。

トラーニオ 十分ですよ。

スナッチペニー 私は、倅をあなた様の縁組みにふさわしいとお考えいただいたことに、大喜びしております。倅たちが何とかうまく生活していけるよう、何か与えたいと思っています。有り体に、簡潔に言えば、あなたの承認が得られるなら、今、倅に年1500ポンドやることに決めます。これが娘さんの寡婦給与です。私が死んだ後には、私の全財産を、善意と共に。どうですか？

ボーフォイ サー・ライオネル、あなたの寛大さに満足いたしました。あなたは正直な意味の紳士でいらっしゃる。この若者たちは——私が間違っていなければ——互いを気に入っている。では、私はこれ以上何も申しません。これで婚約成立です。

トラーニオ あなたは僕をあなたと結びつけてくださいました。今、大胆に申し上げますが、私は本当に幸せです。契約書の作成はどこでいたしましょうか？

ボーフォイ わしの家では駄目だ、息子よ。内密にやりたいのでな。何しろ、壁に耳ありで、召使いたちもたくさんいる。それに、ウッドオールのおいぼれが我々の邪魔だてをするだろう。奴はいつも耳をすませており、邪魔するだろう。

トラーニオ それでは、私の下宿でということにいたしましょう。そこに父も泊まっておりますので、全ての用向きを片付けることができます。あなたはこの紳士に娘さん呼びにやらせるのがよろしい。私は小姓に公証人をすぐ連れて来させましょう。最悪の事態とは、あまりにも注意が足りないことから生じるもの。あなた様には少額の支払いで構いませんね。

ボーフォイ お構いなく、お構いなく。それで構いません。

スナッチペニー あなたのお嬢様にお目にかかりたい。たくさん褒め言葉をうかがっていますので。

ボーフォイ ええ、すぐに。お前、ビアンカの所に行って、わしからだと伝えてくれ。すぐにお前さんと一緒にここに来るようにと。ことの成り行きを伝えて、ウィンラブさんの花嫁になる準備をしなければならぬと言うもよし。もし、お前さんがそうしたいのなら。

ウィンラブ 旦那様、私、すぐに彼女を連れて来ましょ。

トラーニオ 旦那様、よろしければ、どうか私の父と一緒に中に入ってください。これが私の下宿です。

ボーフォイ よし、そうしよう。さあ、サー・ライオネル、どうぞお先に。

スナッチペニー 旦那様、私がお供をいたしましょう。

[ボーフォイ、スナッチペニー、トラーニオ退場]

ウィンラブ ジェイミー、ここまで上手くことが運んだな。でも、どうやってやり遂げればいいのだろう。

ジェイミー なーに、方法は一つしかありませんよ、旦那様。

ウィンラブ で、その手とは？

ジェイミー ええ、こういうことです。つまり、この私が目的にかなう教区牧師を一人手に入れる。あなた様はビアンカと外で落ち合ったら、鞭打ってでもコヴェント・ガーデンの教会へと連れて行き、そこで結婚なさい。そうすりゃ、仕事は終わりです。

ウィンラブ いやはや、お前の言う通りだ。だが、正当な聖職者はいるのか？ 俺たちふたりに婚姻の契約を結ばせるのがオバデヤみたいな奴だなんてご免だよ。

ジェイミー 信じてください、旦那様。正真正銘の牧師をご用意いたします。聖書なしで結婚の言葉が全て言えるような。目隠しされていても、洗礼、結婚、葬儀を執り行なえるような。

ウィンラブ では、お前の計画に乗ろう。もし彼女を説得できたら——そうできることを望んでいるのだが——なにぶん、彼女が俺を愛しているか分からんので。幸運よ、わが身に訪れますように。だが、こちらにやって来るのは誰だ？

ウッドオール登場

ジェイミー 金に卑しい年寄りウッドオールですよ。さて、どういたしましょうか？

ウィンラブ 奴を追っ払う手を何か考えねば。

ウッドオール こんな膠着状態は嫌だ。何かわしを騙す芝居が準備されているんじゃないだろうか。おや、ここに先生が。彼なら教えてくれるかもしれん——先生。

ウィンラブ もし、もし、旦那様。あなたの僕です、旦那様。

ウッドオール 先生、もしできるなら、どうか教えてください。どんな状況なのでしょう。事はごく内密に進められておる。愛しのお嬢さんは好意を示してくれておるか？

ウィンラブ ええ、旦那様。私、慎重にあなたに、ドゥ、悪い知らせを伝えます。ビアンカお嬢様は全くあなたに愛情を示していません。私のご主人様がたった今、彼女を呼んで来るようにと私を使いに出されたところなのです。結婚させるんですって。何とおっしゃる旦那でしたっけ？ ムッシュ・ラ……

ウッドオール 何だと、ウィンラブではないだろうな。

ウィンラブ そう、ウィンラブさんですよ。ほんと、私、とてもすみませんが、私、どうしようもないのです。

ウッドオール 老ボォーフォイは気でも狂ったのか。親父さんのお墨付きなしに、娘をあの男と結婚させるとは。

ウィンラブ ここに、ドゥ、とても立派なご老人が町にやって来たばかり。今、私のご主人様が会っていらっしゃいます。

ウッドオール きっと、老サー・ライオネルだ。いや、それじゃ、彼女は全く手に入らぬ。よいか、先生、それでも、わしを幸せな男にできるかどうかはお前の力にかかっておる。

ウィンラブ 旦那様、どうか私をあなたの慎ましい僕として下さい。

ウッドオール そうか、では、お前が彼女を連れて来てくれ。ここに40ポンドの金がある。お前が手袋を一揃い買えるだけの額だ。こちらに連れて来る時に、彼女をわしに渡してくれまいか。わしは二、三人の供を連れてまいる。お前は彼女を力づくで引き離してもよいぞ。

ウィンラブ 旦那様、きっと、私、慎重にあなたにあらゆる、ドゥ、奉仕をいたしますが、それでは、私は、大きなインチキ野郎になっちまいましゅ。

ウッドオール 全く大したことではない。ここに、もっと金がある。お前には害が及ばぬようにしてやろう。さあ、そうしてくれ。

ウィンラブ 旦那様、私、ごろつきになろうという気持ちはございません。ですが、あなたにお仕えする気持ちはございます。私と、ドゥ、道で会いたいとおっしゃるのであれば。

ウッドオール 怖がらなくていい。安全は保証する。では、正直な先生、ごきげんよう。わしは永遠にお前の味方になろう。 [退場]

ウィンラブ はっ、はっ、は。世にも珍しいぞ。あいつ自身で自分を間拔けにしようっていうのだからな。俺たちにできることは何でもしよう。ほら、ジェイミー、これは俺との分け前だ。

ジェイミー 有難う、旦那。こんな思いがけない授かりものが毎日あればいいなあ。でも、さあ、旦那、急がないといけません。きわどい時間です。時宜を逃せば、あなたはビアンカを

失ってしまいます。

ウィンラブ いい忠告だ。さあ、行け。俺はウッドオールからもらった金のいくらかで、指輪を買い、牧師に支払いをするとしよう。はっ、はっ、は。 [兩人退場]

第四幕第三場

ペトルーキオ、マーガレット、ジェラルド、ソーニイ登場

ペトルーキオ 馬たちを歩かせて前の丘を下っておけ。ロンドンに到着するまで、まだ十分時間がある。美しい夜だ。月が明るく綺麗に輝いている。

マーガレット 月ですって！ 太陽よ。今は月が出る時間じゃないわ。

ペトルーキオ あんなに明るく輝くのは月に決まってる。

マーガレット いえ、あんなに明るく輝くのは太陽に決まってるわ。

ペトルーキオ 今、我がおふくろの息子、この俺自身にかけて、あれは月だ。あるいは俺がこうだと言う通りのものにしてやる、お前が親父さんの家を目にするまでに。おい、馬を連れ戻して来るんだ。いつもいつも、逆らっては逆らいやがる！ 逆らうほか何も能が無いのか？

ジェラルド おっしゃる通りだと言っておきなさい。でないと、先へ進めませんよ。

マーガレット お願い、先に進みましょう、あなた。ここまで来たのだから。あれは太陽でも月でも、あるいは、あなたのお好きなもの何でも構わないわ。いえ、あなたがろうそくと呼びたいなら、これから、私にとってはそうだわ。

ペトルーキオ あれは月だと言っておるのだ。

ソーニイ ちえっ、でも、あっしはそうじゃないって言いますぜ、旦那様。けしからん、けしからん、旦那は嘘をついていらっしゃる。

マーガレット ええ、月ですわ。

ペトルーキオ いや、じゃあ、お前は嘘をついている。あれは有難い太陽ではないか。

マーガレット では、それで天も幸せだといいいですわ。あれはあなたがそうだと思うものよ。お願い、先に進みましょう。

ジェラルド やったな、ペトルーキオ、勝ちを収めたぞ。

ペトルーキオ よし、出発だ、先へ進め。今や、正しい曲がりをつけたボーリング球がずっと走るようになった。だが待て、ここへ誰か来るぞ。

サー・ライオネル・ウィンラブ登場

サー・ライオネル 小僧、丘を優しく下るよう御者に命じるのだ。今日は誰とも出会ったり、追い越したりしておらんなあ。待て、ここに何人かいるぞ。

ペトルーキオ ペグ、お前ともう一勝負だ。美しいお嬢さん、おはよう。どちらにおいでですか？ ペグ、こちらへ。お前はこの綺麗なお嬢さんほどの素晴らしい美をかつて見たことがあ

るか？ ペグ、彼女の所へ行って挨拶するのだ。

マーガレット 気でも狂ったの？ これは老人よ。

ベトルーキオ では、また口答えするのか、まだ逆らうのか？ そうするつもりだな？

ソーニイ おや、一体全体、どういうおつもりで？ これは美しい娘なんかじゃありませんよ、旦那。ちえっ、そりゃ全くひどい詐欺だ。

ジェラルド 旦那はこの老人を気違い扱いなさるおつもりだ。

マーガレット 新芽のように、うら若いお嬢さん、とても美しくて、かわいらしくて、^{みずみず}瑞々しい人ね。どちらにおいでですか？ このように美しい人と一緒に旅ができるとは嬉しい。何という幸せかしら。

ソーニイ 悪魔があんたの頭ん中に鳥の巣をこしらえたんだな。いやはや、あんたは旦那と同じくらい気が狂ってる。ねえ、旦那ときたら、まるで三月うさぎみたいに狂っていらっしやるんだよ。

サー・ライオネル えっ、どういう意味ですか、紳士の方？

ベトルーキオ おやっ、これ、これ、ペグ、お前の気が狂ったのでなければいいが。お嬢さんだと、フフン！ これはご老人だ、しわしわで、しおれた男の方だぞ。

マーガレット 失礼いたしました、おじいさん、月が——いえ、太陽でしたわ——あまりにまぶしいものですから、私の目が見誤って、あなたのことがわからなかったのです。今やっと分かりました。あなたは謹厳なご老人。失礼をお許しください。

サー・ライオネル 本当に、あなたは愉快的^{レディ}奥方だ。変わった挨拶をなさるので驚きました。でも、こんな陽気な旅仲間が好きですよ。私は我が息子に会いにロンドンに行くところです。最近わしから離れて上京した息子の所に。

ベトルーキオ ご一緒できて嬉しい。家内の無礼をお許し下さい。あれは昨夜あまりよく眠っていないのです。それに、断食したまま外出すると言って聞かないものだから、途方もない妄想が浮かぶのです。

ソーニイ あんたは嘘つきの、生まれの卑しい犬たい。畜生、旦那、この方はここ数日、彼女に食事を与えようとせんやったとばい。

マーガレット あなたの弁解なんて糞食らえよ。それに、その大義も。フライにすることができてたなら、靴底だって食べてたんだから。

ベトルーキオ 旦那様、お名前をうかがってもよろしいですか？

サー・ライオネル 故郷ではサー・ライオネル・ウィンラブと呼ばれております。

ベトルーキオ 若いウィンラブさんのお父様ですか？

サー・ライオネル いかにも、旦那様。

ベトルーキオ では、あなたにお目にかかれて本当に嬉しゅうございます。あなたにとってはおそらく有難くないかもしれない知らせをいくつか、あなたにお知らせいたしましょう。あなたの息子さんは、ここ二日以内にきっと僕のことをお兄さんと呼ぶはずなのです。

サー・ライオネル どういうことか教えてください、旦那様。

ベトルーキオ そりゃあ、私の妻の妹、ロード・ボーフォイの娘さんと、あなたの息子さんが結婚するからですよ。自慢の縁組み、それに、可愛らしい相手です。あなたに請合ってもよ

ろしい。

ソーニイ　ちえっ、ソーニイ以外の男にゃ、良すぎる女だぜ。ちえっ、可愛そうなソーニイがスコットランドで彼女を手に入れたなら、畜生、こんな風に彼女を振り回すのに。

サー・ライオネル　驚いた！ 本当ですか？ それとも、愉快的旅人がやるように、出会った旅仲間に冗談を飛ばしてらっしゃるのですかな？

ジェラルド　誓って申し上げます、旦那様、まさに本当です。そのように決められました。ですが、私は彼が彼女と結婚するとは思いません。そうなりゃ、彼は偽証罪を犯すことになりますから。

サー・ライオネル　あなたはますます混乱させる。

ペトルーキオ　こいつのことはお気になされるな。彼も旅仲間、そりゃ本当です。

サー・ライオネル　紳士の方々、どうか急ごう。この件は気をつけねば。それにしても奇妙だ。わしの同意なく結婚したりせんだろうに。やつはわしの一人息子で、わしの相続人で、我が家族の支えだ。注意せねば。

ペトルーキオ　旦那様、あなたが用心深いことは分かりましたが、その必要はありません。ご子息にこれ以上の相手はないですよ。

サー・ライオネル　疑ったりせんよ、もし全てが明らかなら。ロード・ボーフォイとの縁組みは当然嬉しい。彼はわしの学友だった。だが、時が過ぎてわしらの旧友関係も薄れてしまったかもしれん。紳士の方々、最悪を避けるために、わしは急がねばならぬ。

ソーニイ　旦那様、何ですって？ あんたはハンサムな若者をくじいたり、その情熱を冷ましてりするんじゃないですよ、旦那様。

ジェラルド　よし、ペトルーキオ、お前のおかげで俺も勇気が湧いた。さあ、あの未亡人を手に入れるぞ。

第四幕第四場

ウィンラブ、ビアンカ、ジェイミー登場

ウィンラブ　私の美しい人よ、何て素敵なんだろう。ジェイミー、牧師は僕たちのための準備ができているかい？

ジェイミー　できていますとも、旦那様。急いでください。悪魔か何かがやって来て、邪魔をするかもしれないので。親指で帽子をいじって時間を無駄にしちゃ駄目です。さあ、どうかお逃げ下さい。ここにウッドオールが。ご自身のために、うまくおやりなさい。さもないと、全てが台無しになります。
[ウィンラブとビアンカ退場]

ウッドオールが3、4人の仲間と共に登場

ウッドオール　お前たち、彼女を捕え、軽く叩いて椅子に座らせ、誰かが黙らせるんだぞ。怖

がるな。お前たちに害が及ばないようにしてやる。

仲間1 わかりました、旦那様。

ウッドオール どうしてここにこのごろつきが邪魔しに来やがる？

ジェイミー タム、テダム、テダム。ロンドンの古い石炭の唄を歌え。 [歌う]

ウッドオール これ、ジェイミー、どうしてここを歩いとるんだ？

ジェイミー あちこち見て回ってるのさ。テダム、テダム、云々・・・

ウッドオール 皆、お前の主人が今日ビアンカと結婚するって言うてるぞ。

ジェイミー なに、それじゃ、私ら、夜まで陽気にやりましょう。テダム、テダム、云々・・・

ウッドオール このごろつきはどうにも立ち去ろうとしない。おい、何も用事はないのか。お前はまるで今日は酔っていないように見えるな。ほら、これをお前にやろう。朝の一杯をやりに行け。

ジェイミー 有難うございます、旦那様。ビールを一杯、乾杯をご一緒いたしませんか？

ウッドオール いや、おい、わしは今朝コーヒを飲んだのだぞ。 [ジェイミー退場]

これで奴はいなくなった。旦那の方はビアンカと一緒に姿を見せないのでは？

ペトルーキオ、マーガレット、サー・ライオネル、ジェラルド、ソーニイ、お共の者たちと共に登場

ウッドオール はっ、誰かがここに。

ジェラルド ああ、ここにいらした。あなたとお別れしなければ。あなた様の僕。^{しもべ} [退場]

ペトルーキオ サー・ライオネル、町へようこそ。これがあなたの息子さんの下宿です。私の父は反対側に住んでいます。私どもはそこへ行かねばなりません。ゆえに、ここでおいとまします。

サー・ライオネル どうか少しお待ち下され。^{せがれ} 倅は中に居ないかもしれません。もしそうなら、ロード・ポーフォイの屋敷まで、あなたについて行きたい。

ソーニイ おやおや、(ノックする) この年寄りの泥棒以上にうまくディナーをねだった人は誓っていないね。

ウッドオール 中は皆取り込み中だ、旦那。もっと強く叩かないと聞こえないよ。

[スナッチペニーが二階に登場]

スナッチペニー 城門を壊そうとするかのごとく、激しくノックするのは誰だ？

サー・ライオネル ウィンラブさんは中においでかな？

スナッチペニー おるが、彼と話はできんぞ。

サー・ライオネル その彼に100ポンドか200ポンドの小遣いを渡しに来た男に対してもか？

スナッチペニー 何百ポンドの金だろうと、お前自身のために取っておくんだな。わしが生きている間は、あれに金の不自由はさせん。

ペトルーキオ 旦那様、どうです、私が言った通りでしょう、息子さんはロンドンで大変な人気者だって。ねえ、あなた、くだらん挨拶は抜きにして、彼に伝えて下さい。たった今、お父様が田舎から会いに来られ、話をしようと戸口で待っておられると。

スナッチペニー 旦那、そりゃ嘘だ。あいつの親父は昨日、町にやって来て、今、この窓から覗いておるわ。

サー・ライオネル そんな奴は悪魔だ。お前さんが、あれの親父だと？

スナッチペニー そうとも、あいつのおふくろの言うことを信じていいとすれば。

ソーニイ 親父さんが二人いるちゅうことで、彼を縛り首にできるとかいな、旦那？ あいや、そうじゃったら、哀れなソーンディはきっと存分に縛り首になっちよるやろうね。

ペトルーキオ おやっ、お前には親父が二人いるのか？

ソーニイ ええ、おりますばい。しかも、旦那様、それぞれの父親にゃ、また父親が二人ずつ。

ペトルーキオ おやっ、これはどういうことだ、紳士の方々。けしからん^{かた}じゃないか、他人の名前を騙るとは。

スナッチペニー この悪党を捕まえろ。こいつは、わしの名前を逆に騙^{かた}り、ここで誰かをペテンにかけようって魂胆なのだろう。

ジェイミー登場

ジェイミー お二人が無事に教会に入って行かれるところを見てまいりました。早いとこ終わりますように。(傍白) はっ！ これはどういうことだ、私の昔のご主人様、サー・ライオネル様では？ 畜生、俺たち皆おしまいだ、しくじった。俺はもう開き直るしかない。

サー・ライオネル こっちへ来るんだ、悪党め。

ジェイミー あんたが俺の手間を省いて、こっちへ来てもいいんだぜ。俺に何か言いたいことがあるんなら。

サー・ライオネル こっちへ来い、悪党め。わしを忘れたのか？

ジェイミー 旦那、あんたを忘れたって？ 忘れようにも、忘れられないぜ。何しろ、あんたにゃ以前会ったことがねえんだから。

サー・ライオネル ひどい悪党め、自分の主人の父親に、サー・ライオネル・ウィンラブに一度も会ったことがないとぬかすのか？

ジェイミー ああ、大旦那のことですか？ ええ、それならお会いしていますよ、旦那。ほら、大旦那様はあの窓からご覧になっていらっしゃいます。

サー・ライオネル 窓から見ているだと？ そいつが卑しい身分の者だということをわからせてやる。
(彼を殴る)

ジェイミー た、助けてくれ！ 間違いが俺を殺す気だ！

ソーニイ ジェイミーって自ら名乗って、恐ろしい盗人からぶっ叩かれたくはなかね？ もう一度ジェイミーって自ら名乗りゃ、あっしが二発お見舞いしまっしょ。旦那様、見事食らわせちゃります。

スナッチペニー おい、倅、助けてやれ、兄弟分のボーフォイ殿。ジェイミーが殺されちまう。

ペトルーキオ なあ、ベグ、この騒ぎを傍^{そば}で見物しようじゃないか。

スナッチペニーが召使いたちを引き連れて登場、続いてボーフォイ、トラーニオ登場

トラーニオ 何と、あれはサー・ライオネル！ だが、このままもう少し持ちこたえさせなければ。おい、私の召使いに乱暴をはたらくのは何者だ？

サー・ライオネル 何者だと？ おい、お前こそ何者だ？ 全く信じられん、わしは何を見ているというのか？ ああ、ひどい悪党め、わしはおしまいだ！ わしが田舎の家でつつましく暮らしているというのに、倅と召使いがロンドンでわしの財産を食いつぶしているとは。

ソーニイ あんたの倅は、年を取った魔女にあんたの脛^{すね}をこすらせるために、銀をくれるこっちゃろう。これ以上どんな面倒をお望みですか、旦那？

トラーニオ 何言ってるんだ、さっぱり分らん。

ボーフォイ この男は気が狂っているのか？

トラーニオ 旦那、あんたの身なりは真面目な老人のように見えるけど、あんたの言葉は気違いの言葉だぜ。えっ、旦那、俺が高価な服を着ていることが、あんたに何の関係があるって？ 俺がこうしていられるのは、俺の親父のおかげだ。

サー・ライオネル お前の親父だと！ 悪党め！ お前の親父はパーサ²⁷⁾の麻職人ではないか。

ソーニイ 摩羅、こん悪魔がこいつの腹を麻でパンパンにして、こいつのおふくろさんがこいつの尻ん穴から麻糸を紡ぎゃあいい。

ボーフォイ 人違いだ、あなたは人違いをなさっておられる。この方の名前を何だと思いか？

サー・ライオネル この方の名前？ その名前をわしが知らんとでも？ わしは奴が3歳の餓鬼の頃から育ててきた。こいつの名前はトラーニオだ。

スナッチペニー 帰った、帰った、気違い野郎め、これの名前はウィンラブだ。わしの一人息子で、イブシャムのわしの全領地の相続人だ。

サー・ライオネル 何と！ こいつは主人を殺したんだ。こいつを捕まえろ。国王の名において命令する。ああ、わしの倅！ やい、この悪党め、わしの倅ウィンラブはどこにいる？

トラーニオ 走って、役人を呼んで来い。この気違いを牢屋にぶちこむために。こいつを捕まえろ。命令だ。こいつを裁判にかけられるようにするんだ。

ソーニイ 旦那、この麻職人と一緒にお逃げなさい。

サー・ライオネル お前ら悪党どもめ、わしを牢屋にぶちこむだと！

ベトルーキオ 待て、紳士の諸君。お父さん、あなたに祝福を。

ボーフォイ 倅ベトルーキオよ、よく来た。そなたにも祝福を。それに、ペグ、お前にも。ご機嫌はいかが？ 事態が分かるか？

ベトルーキオ お父さん、ご注意下さい。私が知る限り、この方がサー・ライオネル・ウィンラブさんで、あちらは偽物です。

ソーニイ いやはや！ あっしもそうだと思います。もしよろしければ、そのことで、厳肅同盟を結びましょう。

ウッドオール わしも誓うぞ。あやうく騙されるところだった。

スナッチペニー 誓いたいなら誓うがいい。

ウッドオール 旦那、わしはあけすけに誓う気はない。

²⁷⁾ 原文では“Partha”とあるが、イタリアのどの地名を指しているかは不明。

トラーニオ この俺がウィンラブじゃないと誓えばいい。

ウッドオール いや、あんたはウィンラブさんだ。

ボーフォイ この老いぼれを連れて行け。その男と一緒に牢屋へ。

サー・ライオネル あんた方は皆で示し合わせて私をからかう気か？ さあ、ロード・ボーフォイ、私を憶えていなさると思うが。

トラーニオ 今のところは、奴を俺の下宿に連れて行け。身柄を引き渡す治安官^{コンスタブル}が見つかるまではな。通りがうるさくなるな。さあ、連れて行け。

サー・ライオネル ごろつき、悪党、人殺し！ 身の潔白を証明してやる。

[サー・ライオネル、引っ立てられて退場]

ウッドオール 妙な口論だ。どう考えればいいのか分らん。でも、ビアンカが居合わせなかったのは幸いだ。きっと旦那様はわしを見誤りはしないだろう。

ウィンラブとビアンカ登場

ウィンラブ さあ、僕のビアンカ、僕は本当に幸せだよ。僕たちの幸せは永遠に続く春のようだ。

ビアンカ でも、お父様のお怒りからどう逃げればいいのか？

ウィンラブ 心配するなって、そのことは僕が請け合うよ。

ウッドオール おやっ、ここにビアンカが。おや、おや、旦那、勇ましい。こりゃ、どういうことで？

ウィンラブ ああ、旦那様、彼女を連れてまいりました。ウッドオールさん、ご機嫌いかが？ 僕の新しい花嫁がお気に召すでしょうか？

ウッドオール な、な、何と、旦那、あんたの花嫁だって？ ただちに彼女を捕まえろ。

ウィンラブ 手を放せ。彼女は僕の妻だ。彼女に触れる勇気がある者は触れるがいい。齒を抜いてもらいたいのか？ この女性にフランス語を教えるため、あんたは金貨20枚支払った。そのことをどう思う？

ウッドオール ああ、ごろつきめ、縛り首にしてやる。

ウィンラブ マダム・ビアンカを掠め取るために、手袋を買う金貨40枚を渡したことはどうだ？ この指輪はその一部で買ったものだ、はっ、はっ、は。

ウッドオール 奴をぶつつぶせ、ぶつつぶせ！ いまいましい悪党だ。

ウィンラブ 俺がぶつつぶしてやる。鼻血を流したい奴はどいつだ？

仲間2 いや、もし彼女が彼の妻だっていうんなら、俺たちや、彼女に触れる気はねえぜ。

ウッドオール 触れる気がある奴を誰か連れて来るからな。ああ、悪魔め。 [退場]

ウィンラブ ああ、そうしろ。俺はあんたの貧しい先生さ、はっ、はっ、は。ビアンカ、恐がらなくていい。奴がその気のある者たちを集めてやってくることは分かっている。俺たちや、お前の親父さんの怒りをたやすく和らげよう。そいつは請け合うよ。

ビアンカ 判かってちょうだい、あなた、私は嵐が怖い。

ボーフォイ、トラーニオ、ペトルーキオ、マーガレット、ソーニイ、スナッチペニー、
ジェイミー、サー・ライオネル、ウッドオール、お供の者たち登場

ウッドオール あのごろつきです。いまいまいしい偽フランス人があなたのお嬢さんを盗んで、
結婚したんですよ。ほら、二人ともいます。

ウィンラブ 僕をお護り下さい！ あちらに見えるのは何だ？ 親父が、真面目な顔をしてる？
愛しいお父さん、あなたに祝福を。そして、ごめんなさい。

サー・ライオネル 愛しい我が倅よ、生きておったのか？ ならば、^{げんこつ}拳骨だ。

ビアンカ お父様、私からも、お赦し願います。

ウィンラブ それに、僕からも、とても立派なお父さん。

ボーフォイ な、何事だ？ 何をした？ お前がフランス人と結婚したと、ウッドオールがわし
に言ったが。

ウィンラブ 彼女が結婚したのは、僕とです。フランス人なんかとではありません。紛れもな
いウィンラブ、紛れもないウィンラブの息子が彼女の夫であり、あなたの義理の息子なので
す。

ソーニイ ちえっ、旦那、あんさんは二役演じちよる。前の場面じゃ、あんさんは麻職人だっ
たばい、旦那。

スナッチペニー もう、わしらは行く時間だ。既に片耳は失っている気分だ²⁸⁾。 [退場]

ボーフォイ びっくりさせなさる。あんたはウッドオールさんの推薦でわしの娘に教えたがっ
ていたフランス人じゃなかったのかい？

ビアンカ いいえ、旦那様、この人は私に求婚するために変装をしていたの。彼が本当の
^{ウィンラブ}愛の勝利者よ。

サー・ライオネル そりゃ、わしの息子です、旦那様。

ウィンラブ こいつらは僕が用意した偽物にすぎません。

ウッドオール ここにいるわしは、恋人への継ぎ当てか。わしは一杯食わされたんだ。

ボーフォイ だが、あんた、よろしいか？ あんたはわしの承諾なしに娘と結婚したことにな
らないか？

サー・ライオネル いいえ、あなた様、今こそ私がどんな男かお知りになるべきです。二人を
お赦しいただくよう、私からお願いいたします。娘さんにはその生まれと財産にふさわしい
寡婦資産をお約束いたしましょう。

ウィンラブ それでこそ、親父だ。

ボーフォイ サー・ライオネルよ、わしの勇み足をお赦し下され。あなたの気高いお申し出を
受け入れます。お前たちは赦されたぞ。

ソーニイ ちえっ、旦那様、私らあ、ディナーとまいりましょうよ。あの悪魔は私たち皆の罪
を忘れ、許して下さるんだとさ、旦那様。

サー・ライオネル だが、わしを牢屋送りにしようとしたあの悪党はどこだ？ 奴の鼻を切り

²⁸⁾ 両耳を削ぎ落とされるのが当時の偽証罪に対する罰であった。

裂いてやる。

ウィンラブ ご免なさい、彼は僕のためにしたんです。

サー・ライオネル ならば、あんたに免じて奴を赦そう。

ボーフォイ さあ、紳士の諸君、わしの家へ。皆きれいさっぱり疑念を晴らして、ごちそうをたらふく堪能しようではないか。

ウッドオール 旦那、金を返してくれまいか？ 恋人を失ったというので十分じゃ。

ウィンラブ いや、既に金はよりよい持ち主の手の中にある。あんたはそれを浪費したんだ。あんたはフランス人の連中をまた雇うだろうさ。

ウッドオール ああ、からかうがいいさ。わしは中に入って、ごちそうの一部を食いつくそう。

ボーフォイ さあ、紳士の諸君。

マーガレット あなた、私の父と一緒に行かないの？

ペトルーキオ その前に、キスしてくれ、ペグ。そしたら、行こう。

マーガレット えっ、往来の真ん中よ。

ペトルーキオ 何だと、俺が恥ずかしいのか？

マーガレット あなた、そうじゃなくて、人前でキスするのが恥ずかしいのよ。

ペトルーキオ よし、それなら、また家へと引き返すぞ。ソーニイ、先を行け。

ソーニイ 畜生、旦那様、ソーニイはディナー前にちょっとばかり食い物を失敬して来やす。

マーガレット いやよ、キスするわ。いやよ、お願い、待って。

ペトルーキオ どうだ、これでいいだろう？ 俺の可愛いペグ、行くぞ。

ビアンカ お姉様、これで私たち友だちになれるわね。

マーガレット あんたの敵になったことはないわよ。

ウィンラブ さあ、美しい人。嵐はことごとく吹き飛んだ。愛の女神はそれ自身の機智と財産を持っている。

第五幕第一場

マーガレットとビアンカ登場

ビアンカ でも、お姉様、ありえないことですわ。彼があなたをそんな風に扱ったなんて。

マーガレット イブがアダムにしたように、彼にひどく仕えたら、あれ以上悪く私を扱ったりしなかったでしょうに。でも今、また家に帰って来て落ち着いたわ。復讐をしてやる。ノアの洪水が彼に災いをもたらした時以来あらゆる呪われた女たちの怨念をすっかり寄せ集めて、この舌に新しい活力を加えよう。私この2週間、爪を切ってないの。彼を処刑するのに十分な長さだわ。これが私の慰みなな。

ビアンカ とんでもないわ、お姉様、何てことおっしゃるの？

マーガレット ビアンカ、あんたって馬鹿ね。さあ、あたいを見習いなさい。あんたも男と結婚したんだから。あたいの助言が必要だってこと、あんた分かっちゃいないのよ。助言を有

効に活用なさい。あんたの旦那はまだあんたを正当に扱っているけど、彼と一緒に家に帰る時に注意なさい。いったんあんたを支配下に置くと、彼は奇妙にも気まぐれになるでしょうから。そんな男どもには全く信用が置けない。あんたの気性は柔和で呑気。彼の心を砕くすべを学びなさい。さもないと、彼があんたの心を打ち砕くことになるわよ。

ビアンカ 正直言って、そんな風に扱われるのは嫌いだけど、ウィンラブさんはきっといい性格だわ。

マーガレット 彼を信じて忌々しく思うがいいわ。男って、皆似たようなものよ。いらっしやい、あんたは私の生徒よ。顔のしかめ方から、不親切を大声で叫ぶやり方まで学びなさい。派手に怒り散らしてごらんなさい。あなたには舌があるでしょう、それを活用しなさい。叱り飛ばし、戦い、ひっかき、噛みつき、その他あらゆる手段で抵抗するのよ。理由があろうとなかろうと、彼のやることに不服を申し立てるの。理屈が通っていれば、彼はあなたを笑って赦すでしょう。私はペトルーキオに喜んで私の靴磨きをさせましょう。あるいは、私の馬を歩かせましょう。まあ、ペトルーキオでいいかと私が思うようになるまで。

ビアンカ しーっ、お姉様、私たちの夫が二人して、ここにいるわ。

マーガレット あんた子供ね。ああ、良かった！ 大声を出してやる。

ペトルーキオ さて、弟ウィンラブよ、今や我々は実に幸せだ。かような二人の妻を得てこれほど恵まれた男たちはかつていなかった。

ウィンラブ そうおっしゃるのを聞いて嬉しいです。我が妻に関しては、私は実に恵まれています。

ペトルーキオ あんたのだって？ いや、ビアンカはライオン、彼女に比べりゃマーガレットはおとなしい羊だ。言っとくけど、ウィンラブよ、(彼女にゃ聞こえんが、そりゃ構わん) 敢えて言おう、この世でこれほど従順で、これほど熱心で、愛想のいい妻を持つ男は誰一人としていないぜ。お気の毒に。俺は誓ってもいい。俺のためなら、あいつは裸足で100マイル歩くだろうさ。

マーガレット いやよ、そんなことしたくない。1マイルだってご免だわ。

ソーニイ さあ、両耳をぶっ叩きなさいませ、旦那様。

ペトルーキオ ああ、ベグ、そこにいたのか？ 愛しいお前、気分はどうだ？

マーガレット 見に来りゃいいわ。でも、そんなに大事なこと？

ソーニイ 旦那様、身構えなさい。ああ、ソーニイは兜をかぶりやす。

ペトルーキオ 気分がいいとお前が言うのを聞いて嬉しいぞ、本当に。

マーガレット あんたにとって何一つ良くないってことが分かるでしょう。

ペトルーキオ いや、お前が俺を愛してるってことは分かっている。なあ、俺の手袋を拾ってくれないか、ベグ。

マーガレット あんたの手袋を拾うですって？ あら、そんなこと、召使いに命じなさい。ほら、そこにあるわ。

ペトルーキオ お前が陽気だと知って嬉しいぞ、哀れで手に負えぬ悪たれめ。

マーガレット 上等ね。あんたは田舎ににいると思っているようだけど、それは間違いよ。事態は変わったわ。今、私は実家にいて、自分の思い通りに振る舞えるのよ。さあ、あっちに行っ

て、あそこの当てにならないどんくさい奴に威張り散らすがいいわ。辛抱強いあなたの妻は、もうこれ以上あんたを楽しませたりしない。お父様は私に肉も住まいも赦してくれるでしょう。それに、ハイランド人じゃない女中もね。

ソーニイ 畜生、もしあんたがグランサムグランドサムの市場の長だったなら、あんたがガミガミ女王だっ
てことを町中いやっちゅうほど聞かされとるやろうね。ああ、いやだ、いやだ。

ペトルーキオ おい、どうした、ペグ？ これほど陽気な気分でいるところをこれまで見たこ
とがない。きっと、酒を飲んでいたな。

ソーニイ ええ、そうでしょう。黙れ、不潔な酔っ払い豚め。くそっ、くそっ、くそっ。あん
たは酔っ払ってて、ソーニイを連れたかあねえんだな？ くそっ、くそっ、くそっ。

マーガレット 酔っ払ってるように見える方が、あんたと話すにはちょうどいいわ。しらふの
女じゃ誰一人、あんたの相手は出来ないから。

ペトルーキオ まさにお前の言う通り。俺たちは似合いの夫婦だ。

マーガレット さて、結末はどうなるかしら。ペトルーキオ、こっちに来て。あなたに言いた
い、大事なことがあるのよ。

ソーニイ 一歩たりとも動いちゃ駄目ですぜ、旦那。絶対、あいつは旦那の目玉をえぐり出す
つもりばい。

ペトルーキオ ああ、お安いで用だ、お前。

マーガレット 第一に、あなたは哀れな男。私の下にあって、あたいが笑って蔑む対象よ、はっ、
はっ、は。

ウィンラブ まだ、彼女のペースだな。

マーガレット あなたを何て呼べばいいか分らないわ。あなたは全く男じゃない。あなたの母
親になるような女はいないわ。けちで、卑劣で、いやな性格の男！ あたいをどんなにひど
く扱ったか考えて身震いしないの？ ねえ、どうして黙っているのよ？ ビアンカ、いいこと？
あの人は、うなだれた犬みたいな顔をして、退役軍人みたいじゃないかしら？ 料理人が羊
の肉を干からびさせたというので、何も食べちゃいけなくなったわ。結婚前は、慣れてたく
せに。それに、シーツが湿っているという理由で寝かせてもらえなかったわ。

ペトルーキオ 気をつけろ、ペグ。お前の家族の前で、お前の召使いたちのへまを公然と話題
にすると、何て風変りな女だ。

マーガレット いいえ、違うわ、あなた。そんなことで、あなたが話す番にはなるもんですか。
先祖譲りのあなたの凶々ずうずうしさをもってしても、そうは運ばないわ。あなたの評判について言
いましょうか。あなたがどんな立派な紳士かって。あなたと半ダースものあなたの召使いた
ちが、一人の女に寄ってたかって悪党ぶりを発揮して、夕食を抜かせたのよ！

ソーニイ おやっ、旦那様、彼女は嘘をついてますぜ。あっしは、この女が腹いっぱいになる
ようにと、古いブーツを渡しましたからね。芥子を塗りゃ、立派な肉になる代物やったばっ
てん、食おうとせんかったんです。

マーガレット 私の落ち度？ いいえ、田舎の善良な地主さん、きっと、そのうちに私を飼い
馴らせると思ったのね。でも、わたしがあなたと肩を並べること、分かったでしょう。
あなたの物静かで忍耐強い妻は、これ以上あなたと一緒に田舎に居ずに、町にとどまること

でしょう。あなたのことを笑い、あなたにもっと機知があればいいのにといいながら。

バトルーキオ そんなこと、笑い飛ばしてやろう。おい、すぐに出発だ。ソーニイ、急いで馬の準備をしろ。

ソーニイ えっ、旦那様、準備するんですか？ あなたの花嫁を運ぶために、ハイランドの雌馬に鞍を取り付けましょう。あらっ、あべこべに彼女の方があなたのロバに乗ろうとしてますよ。[マーガレットに向かって] 奥様！

マーガレット あなた、馬を押えておいて。彼の代わりに私があなたのめかし屋をくしけずってあげる。いいえ、あなた、「お願いだから、行かせないで」って言ってるんじゃないの。そうじゃなくて、はっきり言って、行きたくないの。思い通りにしたいなら、私に強いてごらんなさい。私はそうさせられるってあなたが思うほど物静かで舌足らずじゃないのよ。

バトルーキオ ペグ、お願いだから、少し黙っていてくれ。お前が喋れることは分かってる。さあ、出発だ。さもないと、お前は明日何も喋れなくなるぞ。

マーガレット いいえ、何度でも言ってやる。それに、男の姿をした可哀そうで見下げた人形に、思いつくことをもっと言ってやる。ピアンカ、この人は自分のモグラ塚から離れた所でいきり立っているわ。

バトルーキオ ペグ、お願いだから、騒音を立てないでくれ。ほんと、頭が痛くなる。

マーガレット 騒音ですって？ こんな、序の口よ。毎晩、眠ってても、これより大きな声を出してやる。

ソーニイ そんな時や、ソーニイの代わりに悪魔をあんたのベッドの友にしてくれる！

マーガレット あらゆる国の言葉であなたに毒づくことを学んでやる。私の舌に比べたら、雷なんて静かな音楽になるわ。

ソーニイ ちょっとばかりし、スコットランド語でけんかしてくれよ。おい、そうすりゃフランス語の落雷でもって、拍手してやらあ。

バトルーキオ いいぞ、続けろ。

マーガレット わたし、これまでに考えられたあらゆる種類の悪い名前を集めているの。一日に二度ずつ、そうした名前で連呼してやる。

バトルーキオ 若いガミガミ屋さんの教育のために、そのカタログを出版したらどうだ。続けろ、ペグ。

マーガレット あんたをビリングズゲートの杭につないで、魚屋のおかみさんたちに噛みつかせてやる。その間、私は側でやじってやるわ。

バトルーキオ はっ、はっ、は。機智があるな、ペグ、続けろ。

マーガレット 私の命令で、あんたは鼻もかめなくなるわ。私があんたの主人だってこと、思い知らせてやる。

ソーニイ えい、旦那様、あいつを犯罪者席に連れて行きなさい。

バトルーキオ うーん、お前はすぐに半ズボンで通すことになるだろう。続けろ、続けろ。何、もう弾切れか？ はっ、はっ、は。

マーガレット 縛り首になってて、笑ってるの？ お楽しみを駄目にしてやる。(彼目がけて飛びかかる)

ペトルーキオ やめろ、ペグ、その手を放せ。お前がこんなに早く俺に殴りかかって自分のいいところを辱めるとは知らなかった。怒り続けるがいい。お前の言葉を聞いてどれほど俺が喜んでいるか分らんだろうな。お前には本当によくお似合いだ。何だ、既にネタ切れか？ どうか、もっと喋ってくれ。もっと長く、もっと早く、もっと辛辣に！ そんなのは何でもない。

マーガレット インドでお目にかかるようなことでもあれば、あなたを喜ばせることを何だっ
てしてあげるけど。そんなの、どう？

ペトルーキオ 最高だ！ 続けろ、ペグ、早く冷めすぎるぞ。

マーガレット ええ、じゃあ、注意しないと。あなたが溺れてるのを、あるいは、あなたが首
を折られているのを助けるべき時でも、二ヶ月間はもう一言もあなたに話しかけませんから
ね。(ふくれ面をして座る)

ソーニイ おや、まあ、そうなりゃ、あんたが嘘をつくこともないわけだ、奥様。

ペトルーキオ なあ、ペグ、そんな意地悪をするなよ。何だ、突然ふさぎ込むのか？ さあ、
お立ち。バイオリン弾きを呼びにやるから、ダンスをしよう。そんな堅いテーブルに寄りか
かってちゃ、肘を痛めるよ。ソーニイ、奥様にクッションをお持ちしろ。ああ！ 具合が悪
いのでは？ 妹よ、見てくれないか。

ビアンカ お姉様、具合が悪いの？ 何がお気に召さないの？ お姉様、お願いだから、口をき
いてちょうだい。お兄様、本当に、かんかんに怒らせてしまった。お姉様は病気になるわ。

ペトルーキオ ああ！ ああ！ 何が悪いかわかってるぞ。歯が痛いんだな。あんな風に頬を抱え
てるからな。この寒空で口を開け続けたので、歯に風が当たったんだ。

ビアンカ 本当にそうかもしれませんわ、お兄様。姉は時々その痛みに悩まされてましたから。

ペトルーキオ 疑問の余地は全くない。哀れなペグ、同情するよ。どの歯が痛む？ ペグ、抜
いてみたらどうか？ 歯痛は、あらゆる歯医者を手こずらせるもの。抜く以外に治療法はな
い。何と言っているんだ？ 抜いてもらいたいのか？ では、抜いてもらえばいい。ソーニイ、
近くの床屋に走って行け。お前は先週俺の歯を抜いた床屋がどこに住んでいるかわかってい
る。すぐに彼を呼んで来るんだ。何故、まじまじと見ながら、突っ立っている？ すぐに走っ
て呼んで来い。さもないと、お前の脚を切り落とすぞ。

ソーニイ ああ、もしお望みなら、彼女の頭を引っこ抜いてくれる人を連れて来まっしょう。

[退場]

ウィンラブ これは彼女がまた喋る契機になるだろう。さもないと、きっと彼女は永遠に舌を
失うことだろう。

ペトルーキオ 弟よ、彼女の舌だって？ ああ！ 彼女の顔はあんなに腫れ上がっている。だか
ら、喋れないのだ。

ビアンカ 冗談をおっしゃっているのね、お兄様。お姉様の顔は腫れていないわ。見せて、お
姉様。私には腫れているかどうか分らないわ。

ペトルーキオ 腫れてないだと？ おい、それなら、お前は盲だ。彼女に構うな。厄介がられ
るぞ。

ボーフォイ ああ、息子ペトルーキオよ、わしの愛しい娘は死んだのか？

ペトルーキオ ああ！ ああ！ 本当なのです。私が代われば良かったのですが。

ボーフォイ 何、わたしには、あれは元気で、生き生きとしていて、活発なように見えるが。

ペトルーキオ 有り余る美がいくらか残っていて、天に昇るのを躊躇し、まだ顔のあたりで彷徨っているのに違いありません。

ボーフォイ どんな病気だったのか？

ペトルーキオ 実際、申し上げるのは残念ですが、真実は明るみに出るもの。あれは悪意のために亡くなりました。奇妙にも感染したのです。

ビアンカ もう、お姉様、みっともないわ、喋って。こんな風にあの人に言いたい放題にさせておく気？

ペトルーキオ 紳士の諸君、あなた方は私の愛すべき友であり、類まれなる妻の美德を知っておられた。どうかその死体に墓まで付き添ってくれまいか。

全員 私たちは皆、付いて行きます、

ボーフォイ 実際、お前さんはあれを悲嘆に暮れさせるだろう。

ペトルーキオ きっと、その時には、よりタフになるでしょうよ。

ソーニイと棺架を持った担ぎ手たち登場

ソーニイ とてもいい担ぎ手たちを連れて来やした。旦那様、こん女が死んじょらんようなら、1クラウン余分に払ゃあ、すぐに埋めてくれやすぜ。

ペトルーキオ ああ、皆よく来てくれた。あの死体を持ち上げてくれ。何と！ お前たちは冷酷者か？ かような美と善が失われたというのに、何故涙を流さぬ？ 彼女を持ち上げて、棺架の上に寝かせてくれ。

担ぎ手1 おや、旦那、こりゃどういう意味ですか？ 彼女は死んじやいませんぜ。

ペトルーキオ おい、ごろつきめ、俺の顔めがけてそんな嘘を吐くか？ 持ち上げるんだ。さもないと、きさまを振り回すぞ。

ソーニイ 持ち上げろ、持ち上げろ。彼女を殺しちまおうぜ。ビリー、余分に2クラウンだ。持ち上げろ。

担ぎ手1 生きていようが死んでいようが、俺たちにゃ同じようなもんだ。見合った賃金をくれ。

ペトルーキオ ほら。だが、彼女は硬直してるぞ。でも、続けるんだ。(傍白) まだ口を開こうとしないのか？ ならば、ほら、紐を持って、彼女を棺架に縛りつけるんだ。生きてる時にゃ活発に動く身体だったから、死んだ今も棺から落っこちるかもしれん。ほら、持ち上げて、あっちへ運べ。さあ、紳士の諸君、ついて来て下さい。ストランドを通して、セント・ジェイムズ教会まで運んで行きましょう。私が彼女にどんな敬意を抱いているか、皆は見えて分かるでしょう。死んだのですから、たくさん儀式をやってやりましょう。そこで馬車と落ち合って、田舎まで運ぶことにいたしましょう。我が一族の墓がある谷に彼女を安置して、記念碑を立てましょう。あなた方の中には、彼女の生まれ、資質、身分にふさわしい墓碑銘

を書く立派な詩人を私に尋ねる方もいらっしゃる。これほど多くの美德の思い出が失われることは残念です。先へと進みましょう。これ以上は言いますまい。悲嘆が私の舌を止める。
マーガレット お父様、妹よ、あなた、全員気が狂ってるの？ 私を皆の恥さらしにするつもり？ ごろつきども、私を降ろして。さあ、降ろしなさいよ。

ペトルーキオ 奇蹟だ！ 奇蹟だ！ 生き返ったぞ！ 天に感謝だ。彼女を降ろしてくれ。可愛そうなベグ、生きているのか？

マーガレット ええ、生きてるわよ。あんたを苦しめてやる。

ソーニイ くそっ、くそっ、彼女をいっちゃん信じちゃならんばい。おやっ、あっしのばあ様と同じくらい死んどるよ。旦那様、担ぎ上げて、連れて行っておくんなせえ。

ペトルーキオ ああ、俺の希望はまたことごとく消え去った。死体に悪魔が取り憑いて、喋っている。もう一度担ぎ直せ。悪魔もろとも埋葬しよう。

マーガレット 待って、待って。私の愛するペトルーキオ、あなたには負けたわ。赦してちょうだい。今後はあなたのご気分には障る考えを抱くことなんていたしません。私をお好きなようになさい。こうひざまずいて、今までの態度を撤回いたします。

全員 勝利だ！ 勝利だ！ 勝負がついた。

ペトルーキオ ベグ、本気か？ お前を信じていいのか？

ソーニイ 彼女が生きちよる時にいつも嘘つき女王だったことをあなたは十分ご存知。だから、本当は今も死んじよるとは思いませんか？

マーガレット あらゆる良いものにかけて、これ以上真実はないわ。

ペトルーキオ では、このように、お前を解放してやろう。そして、お前を俺自身と俺の持ち物全ての女主人にしてやろう。

ソーニイ ちえっ、でも、旦那様、ソーンディを渡すこたあなかでしょう？

ウッドオール おい、君の支配権までくれてやらないように、注意したまえ。

ペトルーキオ 敢えてやってみよう。この契約を後悔するようなことにはならんさ。

マーガレット 私はあなたに後悔の種を与えたりしないでしょう。今、あなたは妻たる者がどうあるべきかを教えて下さいました。私は常にあなた様の謙虚な女中となります。

ペトルーキオ 俺の最高の女ベグよ、互いに親切を交わし、お互いの僕^{しもべ}となろう。紳士の諸君、私と一緒に喜んでみたらどうか？

ボーフォイ 喜びで胸がいっぱいで、言葉が出て来ない。お幸せに。今日はあなた方の結婚式の日だ。

ソーニイ 旦那様、ソーンディは結婚式の^{ブライド・ケーキ}ケーキを持って来て、あん女の頭に投げつけましょうか？²⁹⁾ それに、皆に素晴らしい結婚式のディナーをお出ししましょうか？

ジェラルド登場

ジェラルド 紳士の皆様、神のご加護を。更なる客人を迎える余地はありますか？ 私は合唱^{コーラス}

²⁹⁾ 昔のローマの結婚式では、花嫁の頭の上でケーキを割ったり、花嫁にケーキを投げつけたりして祝福する風習があった。

隊を集めて参りました。

ベトルーキオ 我が友よ、ようこそ。こんなに長い間どこにいた？

ジェラルド ちょっとした用事にかかっておりました。私はたった今、結婚式から来たところです。

ベトルーキオ おい、誰の結婚式だ？ 教えてくれ。

ジェラルド 実際、私自身のです。遂に思い切りました。奥様、お赦し下さるものと存じます。

ビアンカ ええ、赦しますとも。それに、この方も同じ様に。

ソーニイ あんたは麻職人紳士ではなかったか？

ベトルーキオ いかにもそうだ。それは真剣な愛の勝利者であることの証明だ。

ジェラルド 紳士の方々、この謎を解き明かして下さい。私にはさっぱり分かりません。

ベトルーキオ すぐに分かせてやろう。紳士の諸君、その間、そのことを信じてくれ。俺たちにはもう一人、女が欠けている。いれば、皆揃って踊れるかもしれないのに。

ジェラルド 我が未亡人が奥に。ここに来れば、あなた方を満足させることでしょう。

ボーフォイ ペグ、行って、彼女に付き添ってやれ。それに、ビアンカ、お前も。

[ペグとビアンカ退場]

ベトルーキオ いいか、ジェラルド、今の俺ほど従順で愛らしい妻を持った男はかつていなかった。彼女に匹敵する女はいないと俺は断言する。

ウィンラブ いや、お兄さん、彼女の妹は例外にしないと。

ジェラルド 私のも例外に。でないと、とんだ契約をしてしまったことになる。我が未亡人は従順そのもの。

ベトルーキオ これからお前たちと何をするか教えてやろう。俺の手には銀貨10枚が握られている。俺の妻がお前たちの妻たちより従順だということを証明するための掛け金だ。誰の妻が最も従順かを試すために、各々、自分の妻に賭けようじゃないか。もし俺の妻が最初に来なけりゃ、俺は掛け金を失うことになる。

ジェラルド よし、旦那、お前さんが銀貨を失うことは確実だ。

兩人 よし、乗った。

ウッドオール ジェラルド、俺はお前さんの半分を持つ。それに、ウィンラブさん、君のもな。

ウィンラブ ジェイミー、奥様の所へ行って、すぐに来て欲しいと俺が言っていると伝えろ。

[ジェイミー退場]

ベトルーキオ 来ない方に、銀貨もう1枚だ。

ボーフォイ 負けるぞ、息子よ、負けるぞ。あの女は来るさ。

ベトルーキオ あの女は来ないさ。俺が掛け金をいただくことになるって、直感で分かるんだ。

ジェイミー登場

ジェイミー 旦那様、奥様は忙しいとおっしゃってます。ジェラルドさんの奥様を置いて来れないとのこと。

ベトルーキオ ほら、見ろ。さあ、金を。

ジェラルド すまないが、もう一度行って、俺の妻に、すぐに話さなきゃならんことがあると言ってくれ。 [ジェイミー退場]

ベトルーキオ お前さんの方も俺の勝ちだ。掛け金は俺のポケットの中にあるも同然。

ジェラルド そんなこと、保証できん。賭け金を失うと分かっている、お前さんは何を渡すおつもりか？

ベトルーキオ 俺は40シリング持って行くのはごめんだな。

ジェイミー登場

どうだった？

ジェイミー 奥様は、旦那様は関係ないとおっしゃいました。話したいことがおありなら、あなた様の方から来たらどうかと。

ベトルーキオ さあ、俺の順番が来たぞ。こうなるだろうと分かってたんだ。ソーニイ、ペグの所へ行って、すぐ来るようにと俺が命じていると言え。

ソーニイ 旦那様、奥様が一緒に来ちくれることを祈るばかりばい。さもなきゃ、奥様の腹に、短剣を柄までズブリと刺さなきゃならん。

ウッドオール それでも、あなたが勝つことはない。彼女が来たら、俺は首をくぐられたっていい。

ベトルーキオ ほう。でも、彼女は来るぞ。あんたがビアンカに求婚するのに銀貨40枚使ったのと同じように、あんたと、銀貨もう20枚上乗せだ。

ウッドオール いや、俺はもう既に十分、損をした。

ペグとソーニイ登場

ベトルーキオ 紳士の諸君、これをご覧下さい。

ソーニイ 何てこった！ 彼女はおとなくていい娘っ子になりなすった。いつでも旦那様の言いつけに従うばい。彼女を捕まえて、キスなさい。

マーガレット 旦那様、あなたの命令を伺いに参りました。

ベトルーキオ ペグ、お前に言わねばならんのは、この二人の紳士の方々に10ポンド払うよう催促せよと命じることだけだ。お前がそれを勝ち取った。

マーガレット 旦那様、私がですか？ どのようにして？

ベトルーキオ 俺がお前を呼びにやった時に素直に来る気になった性格のためだ。

マーガレット 旦那様、それは私の義務です。

ベトルーキオ さあ、払え、払え、彼女に渡すんだ。俺はお前たちにたった2ペンス賭けた訳じゃないぞ。

ジェラルド これが私の分です。

ウィンラブ それに、私の分も、お姉様。何か良いことにお使い下さい。

ボーフォイ でかしたぞ、ペグ。このことで、おまえの価値が1000ポンド更に増したことが分

かった。

ソーニイ ばってん、彼女が善良で従順な女になる手助けをしたソーンディには、何をくださるおつもりか？ いやはや、彼女ときたら、ギャロウェーの子馬んごと荒々しかったばい。

ビアンカと未亡人、登場

ウィンラブ ほら、遂に来たぞ。

ビアンカ どんな用件で私を呼びにやらせたの？

ウィンラブ いやね、僕が5ポンド勝ち取るためだ。もし君がそうあるべきように従順であってくれてたなら。

ビアンカ あなたは私の義務にそんな大金を賭けるほど、私と十分に付き合ったわけじゃないわ。私はちょっと姉の弟子入りをしているところなの。

ソーニイ ばってん、旦那、ソーニイん手に教育ば任せりゃ、あんたが彼女を四つん這いにさせて至る所を扱えるくらい従順にしやすぜ。

ジェラルド お前がなすべきことをしていたなら、俺は5ポンドを手に入れていたかもしれん。

未亡人 もう一度やってみたとしても、あんたは当然負けるはず。

マーガレット これ、これ、あなたたち、恥を知りなさい。よくも妻が夫に対して負っている義務を果たさずにいられるわね。夫は私たちの主君だわ。だから、私たちが奉仕するのは当たり前よ。

ボーフォイ よくぞ言った、ペグ。お前が彼女たちの先生だ。さあ、息子よ、もし踊りたいなら、さっさと片付けろ。音楽の準備は出来ている。料理が台無しになってしまう。

バトルーキオ さあ、それでは、音楽を奏でよ、奏でよ。

(踊る)

さあ、中に入って食べましょう。仕事は終わった。

時も時代も、記憶から消し去ることができぬような大仕事が。

俺はじゃじゃ馬を馴らした。だが、恥じたりせぬぞ。

次に皆さんが、他ならぬこの俺じゃじゃ馬馴らしが馴らされる³⁰⁾のを
観ようとも。

(完)

参考文献

- Clark, Sandra. "Shakespeare and Other Adaptations," ed. Susan J. Owen, *A Companion to Restoration Drama*. Oxford: Blackwell, 2001.
- Dobson, Michael. "Adaptation and Revivals," ed. Deborah Payne Fisk, *The Cambridge Companion to English Restoration Theatre*. Cambridge: Cambridge UP, 2000.
- Murray, Barbara A. "'Sirrah, leave off your Scotch, and speak me English, or something like it': John Lacy's *Sauny the Scot* (1667)," *Scottlands*, 5: 2 (1998), 55-64.

³⁰⁾ 原文では "the very Tamer Tam'd" とあり、明らかに、ジョン・フレッチャーの『女の勝利またの名じゃじゃ馬馴らしが馴らされて』を意識した台詞である。

-----, *Restoration Shakespeare: Viewing the Voice*. London: Associated UP, 2001.

Pepys, Samuel. *The Diary of Samuel Pepys*. Ed. Robert Latham and William Matthews. 11 vols. London: Bell, 1970-83.

Randall, Dale B. J. *Winter Fruit: English Drama, 1642-1660*. Lexington, KY: UP of Kentucky, 1995.

Scheil, Katherine West. "Sauny the Scott: or, *The Taming the Shrew*: John Lacy and the Importance of Theatrical Context in the Restoration," *Restoration*, 21: 1 (1997), 66-81.

貴志哲雄（監修），圓月勝博・佐々木和貴・末廣 幹・南 隆太（編集）『イギリス王政復古演劇案内』松柏社，2009年。

佐野昭子「『じゃじゃ馬ならし』の400年」『帝京大学英米言語文化』33（2001），21-36頁。

ジョン・オーブリー『名士小伝』橋口稔・小池 銈（訳），富山房百科文庫26，1979年。